

学校法人東京農業大学の活動と財務

2019年度 事業報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

学校法人 **東京農業大学**

- ◆東京農業大学
- ◆東京情報大学
- ◆東京農業大学第一高等学校
- ◆東京農業大学第二高等学校
- ◆東京農業大学第三高等学校
- ◆東京農業大学第一高等学校中等部
- ◆東京農業大学第三高等学校附属中学校
- ◆東京農業大学稲花小学校

学校法人東京農業大学



東京農業大学(世田谷キャンパス)



東京農業大学 農学部(厚木キャンパス)



東京農業大学 生物産業学部(北海道オホーツクキャンパス)



東京情報大学



東京農業大学第一高等学校
東京農業大学第一高等学校中等部



東京農業大学第二高等学校



東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校



東京農業大学稲花小学校

目 次

I	2019 年度事業報告にあたって	2
II	学校法人の概要	
1	二人の学祖	3
2	沿革	4
3	設置する学校・学部・学科等	5
4	設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒児童数	6
5	設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒児童数	8
6	役員・教職員の概要	
	(1) 役員・評議員	10
	(2) 教職員数	10
III	事業の概要	
1	学校法人の取組み	11
2	教育の推進・社会貢献	
	(1) 東京農業大学	13
	(2) 東京情報大学	17
	(3) 東京農業大学第一高等学校・同中等部	19
	(4) 東京農業大学第二高等学校	21
	(5) 東京農業大学第三高等学校・同附属中学校	23
	(6) 東京農業大学稲花小学校	25
3	研究の推進	
	(1) 東京農業大学	27
	(2) 東京情報大学	28
4	国際連携の推進	29
5	教育研究施設設備等の整備（主要事業）	34
6	2019（令和元）年度卒業生進路（学校別）	36
7	2020（令和2）年度入学試験	38
IV	財務の概要	
1	資金収支計算書	39
	活動区分資金収支計算書	40
2	事業活動収支計算書	41
3	貸借対照表	43
4	財産目録	45
5	資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較	
	(1) 資金収支計算書の経年比較	46
	(2) 事業活動収支計算書の経年比較	47
	(3) 貸借対照表の経年比較	48
6	財務比率の経年比較	
	(1) 事業活動収支計算書財務比率の推移	49
	(2) 貸借対照表財務比率の推移	49

I 2019 年度事業報告にあたって



学校法人東京農業大学
理事長 大澤 貫寿

学校法人東京農業大学の柱東京農業大学は、1891（明治 24）年に榎本武揚によって徳川育英会「育英農科」として創立され、以来これまでの間、榎本武揚の教育への思い「冒険は最良の師」と初代学長横井時敬の「イネのことはイネに聞け」の実学教育を実践し、その時代にふさわしい人材を養成し社会へ輩出してきました。

学校法人東京農業大学は、2018（平成 30）年度に法人学園化の推進の観点から 2019（令和元）年度を始期とする 4 年間で達成目標を定めた第三期中期計画 N2022 並びに中長期財政計画 N2026 を策定しました。本中期計画は、建学の精神を確認、尊重して作成、学園化の普遍的指針となる「使命」、改革実現のコンパスとなる学園の「基本方針」と「経営方針」に基づき、大学部門、小中高等学校部門、事務部門ごとに基本方針とアクションプランで構成されております。法人学園化は、小学校から大学院まで一貫して、二人の学祖が唱えた教育方針を実践し、新しい知や価値を創造し社会の発展と安定に寄与する人材を輩出する学園となることです。本年度は、その実現のために第 3 期中期計画 N2022 並びに中長期財政計画 N2026 の初年度として着実に計画を進めています。

法人学園化の象徴となる小学校については、志願者総数 860 人を超える難関を通過した第一期生 72 人が昨年 4 月に無事入学し、特色あるプログラムの下で学んでいます。特に世田谷・厚木キャンパスや「食と農」の博物館など、東京農業大学の教育・研究資源を活用した体験学習の数々は保護者にも好評であり、その評判もあって、昨秋に実施された第二期生の入学試験では、初年度をさらに上回る 925 人の志願者となりました。

東京農業大学では、都内最大級の研究施設となる農大サイエンスポートを建設し、学術の中核拠点としての整備を行いました。東京情報大学では、情報と看護を融合した新たな看護師養成を進めています。

初等中等教育部門では、総学校長室が各学校を統括し、教育の質的向上、グローバル教育の展開そして ICT 教育とキャリア教育の充実と発展を推進しています。

教育・研究の環境整備では、東京農業大学の農大サイエンスポートの竣工のほか、農学部の実験実習棟の建設、東京農業大学第二高等学校学生寮の建設を行い、教育研究環境の充実を図りました。

学校法人東京農業大学は、学園が一体となって社会の負託に応えるために、教育・研究を推進していくうえでの土台となる組織・経営基盤強化に積極的に取り組み、特に各部門のガバナンス強化による組織力の強化、業務の効率化、財政基盤の強化など経営資源の土台構築を積極的にはかり、将来を見据えた土台の強化を進めます。その一環として、農大サイエンスポートの竣工に合わせて、事務組織と事務システム改革の準備を着実にを行い、2020（令和 2）年 4 月から新事務組織が発足します。これからも財政計画の基本方針を「経営・財政の安定なくして教育研究の充実・発展なし」に置き、児童・生徒・学生がより主体的に学べる教育研究組織へと変革していくための事業に重点的に投資し、健全な財政を構築してまいります。

2020 年 3 月 31 日

II 学校法人の概要

1 二人の学祖



創設者 榎本武揚

学校法人東京農業大学が設置する学校は、東京農業大学、東京情報大学、第一高等学校、第二高等学校、第三高等学校、第一高等学校中等部、第三高等学校附属中学校、東京農業大学稲花小学校の8校です。これら設置学校の学生生徒等総数は、19,693人（2019（令和元）年5月1日現在）です。学校法人東京農業大学の中核である東京農業大学は、1891（明治24）年3月6日、徳川育英会を母体とした私立育英農科として東京市麹町区飯田河岸第4号の3（現在のJR飯田橋駅構内）に創立されました。創設者は、子爵榎本武揚です。その後、1925（大正14）年5月18日、旧大学令による財団法人東京農業大学となりました。



初代学長 横井時敬

初代学長は、近代農学の祖、横井時敬博士です。東京農業大学は、私学の農学系大学では戦前唯一の大学で、我が国で最も歴史が古く、学生数、教員数で我が国最大規模の農学系総合大学に発展し2019（令和元）年度で創立128年目を迎えました。

東京農業大学の建学の理念は、「人物を畑に還す」であり、教育の理念は「実学主義」です。実学主義とは、社会の現実を直視し、考証的な研究を基礎として諸々の改革を提唱する実用的で実際の学問のあり方をいいます。横井時敬博士はこのことを「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」の言葉で表しました。これらの理念は、学校法人東京農業大学傘下の各学校における教育理念の支柱となっています。

東京情報大学の建学の精神は「未来を切り拓く」、教育の理念は「現代実学主義」です。この教育理念に基づき、急速に進展しつつある情報社会の将来を見据え、その変化に適切に対応できる基礎的学力と応用的知識・技術を習得し、優れた情報収集、処理、発信能力をもち、情報社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。

小学・中学・高校部門の教育理念は、生みの親である子爵榎本武揚と育ての親である横井時敬博士の生き様や人となりから導かれたもので、稲花小学校が「冒険心の育成」、第一高等学校・同中等部が「知耕実学（実学で自分の『知・能力』を耕し深める）」、第二高等学校が「何事に対しても主体的に取り組める人材の育成」、第三高等学校・同附属中学校が「不撓不屈の精神」、「旺盛な科学的探究心」、「均整のとれた国際感覚」を其々の理念に掲げ、各学校は、生徒一人ひとりの個性と学力を伸ばし、健全な精神と、実行力に富む国際人の育成を目指しています。

創設者 榎本武揚（えのもと たけあき・1836-1908）

幕臣榎本円兵衛武規の次男として江戸御徒町に生まれる。長崎海軍伝習所を卒業後幕府第一号留学生としてオランダに留学し、蒸気機関学、航海術、化学、国際法を学ぶ。幕府海軍副総裁。函館五稜郭で明治新政府軍と戦い敗れたが、その才能が惜しまれ明治政府で通信大臣（初代）、文部大臣、外務大臣、農商務大臣を歴任。ロシア特命全権公使（1875（明治8）年千島・樺太交換条約調印）、地学協会副会長、日本家禽協会会長、日本気象学会会頭など政界、官界、学会に貢献。子爵の位を授かる。育英農科（現東京農業大学）を創設。東京農業大学の生みの親。享年73歳。

初代学長 横井時敬（よこい ときよし・1860-1927）

肥後国熊本城下に藩士久右衛門兵時教の四男として生まれる。東京駒場農学校農学本科を卒業、東京帝国大学農科大学教授（農学博士）。種籾の塩水選種法（高塩分濃度塩水に種籾を浮かべ種籾の良悪を判断できる）を考案。『稲作改良法』、『栽培汎論』、『小説 模範町村』を著す。農学者、農業経済学者、農政思想家。1895（明治28）年榎本武揚の招聘で東京農学校（現東京農業大学）評議員就任。1907（明治40）年大日本農会附属私立東京高等農学校校長、1911（明治44）年東京農業大学初代学長に就任。農業の担い手、農村のリーダー教育を目的に質実剛健、独立不羈、自強不息の気風高揚に努め、実学を重視した東京農業大学の育ての親。享年67歳。正三位勲一等瑞宝章を授かる。

2 沿革

1 沿革

年月日	沿革
1891. 3. 6	東京市麹町区飯田河岸第4号の3（現在のJR飯田橋駅構内）に徳川育英会を母体とした私立育英農学校を設け、管理長に榎本武揚、養長に永持明德就任
1892. 10. 23	東京市小石川区大塚窪町25番地に移転し、養名を私立育英農学校と改称。養長に伊庭想太郎就任
1893. 5. 11	私立育英農学校を私立東京農学校と改称。校主に榎本武揚、校長に伊庭想太郎就任
1897. 1. 16	私立東京農学校、大日本農会の附属となり、横井時敬が教頭に就任し、校長代理となる。
1898. 10. 13	東京府豊多摩郡渋谷村（現渋谷区）常盤松（昭和3年常盤松と改称）101番地の第三号御料地内に移転
1901. 7. 15	大日本農会附属私立東京高等農学校と改称
1902. 3. 15	設立者代表に石坂橋樹、校長に田中芳男就任
1903. 8. 21	私立東京高等農学校が専門学校令による許可を受ける。
1907. 1. 23	校長に横井時敬就任
1911. 11. 16	私立東京農業大学（大学部本科、予科、高等科）と改称し、初代学長に横井時敬就任
1925. 5. 18	財団法人東京農業大学の設立認可を受ける。大学令による東京農業大学となり、農学部農学科及び予科を設置。学長兼理事長に横井時敬就任
1946. 3. 29	世田谷の現在地（旧陸軍機甲整備学校跡）に移転完了
1949. 2. 21	学校教育法による新制大学（東京農業大学農学部）設置認可
1950. 4. 1	東京農業大学短期大学開設 東京農業大学附属第一高等学校（全日制普通科）開設
1953. 4. 1	東京農業大学大学院農学研究科開設
1962. 4. 1	東京農業大学第二高等学校（全日制普通科）を群馬県高崎市に開設
1975. 6. 1	東京農業大学成人学校（各種学校）の設置認可
1985. 4. 1	東京農業大学第三高等学校（全日制普通科）を埼玉県東松山市に開設
1988. 4. 1	東京情報大学経営情報学部を千葉市若葉区に開設
1989. 4. 1	東京農業大学オホーツクキャンパスを北海道網走市に開設（生物産業学部）
1990. 3. 29	東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部に名称変更認可
1991. 5. 18	東京農業大学創立100周年記念式典を挙げる
1992. 4. 1	東京情報大学大学院経営情報学研究科開設
1993. 4. 1	東京農業大学大学院生物産業学研究科開設
1998. 4. 1	東京農業大学厚木キャンパス開設（農学部が移転）
1998. 4. 1	東京農業大学学部学科改組（農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部の4学部へ改組）
2001. 4. 1	東京情報大学学部学科改組（経営情報学部から総合情報学部へ名称変更）
2005. 4. 1	東京農業大学第一高等学校中等部を開設
2009. 4. 1	東京農業大学第三高等学校附属中学校を開設
2016. 5. 21	東京農業大学創立125周年記念式典を挙げる
2017. 4. 1	東京農業大学生命科学部開設（世田谷キャンパス）
2017. 4. 1	東京情報大学看護学部開設
2019. 4. 1	東京農業大学稲花小学校設置開設



常盤松の学校本部（明治後期に撮影）



世田谷キャンパス



厚木キャンパス



北海道オホーツクキャンパス



東京情報大学



東京農業大学第一高等学校・中等部



東京農業大学第二高等学校



東京農業大学第三高等学校・附属中学校



東京農業大学稲花小学校

3 設置する学校・学部・学科等

<学校等の名称>	<開設年度>
東京農業大学	
大学院農学研究科	
農学専攻	前期課程 1953年 後期課程 1962年
畜産学専攻	前期課程 1986年 後期課程 1990年
バイオセラピー学専攻	前期課程 2010年 後期課程 2012年
バイオサイエンス専攻	前期課程 2002年 後期課程 2004年
農芸化学専攻	前期課程 1957年 後期課程 1959年
醸造学専攻	前期課程 1990年 後期課程 2002年
食品栄養学専攻	前期課程 1986年 後期課程 2002年
林学専攻	前期課程 1986年 後期課程 1990年
農業工学専攻	前期課程 1990年 後期課程 2002年
造園学専攻	前期課程 1990年 後期課程 2002年
国際農業開発学専攻	前期課程 1990年 後期課程 2002年
農業経済学専攻	前期課程 1953年 後期課程 1962年
国際バイオビジネス学専攻	前期課程 2002年 後期課程 2004年
環境共生学専攻	後期課程 1990年
食品安全健康学専攻	修士課程 2018年
大学院生物産業学研究科	
生物生産学専攻	前期課程 2010年
アクアバイオ学専攻	前期課程 2010年
食品香粧学専攻	前期課程 2010年
産業経営学専攻	前期課程 2010年
生物産業学専攻	後期課程 1995年
農学部	
農学科	1949年
動物科学科	1949年
バイオセラピー学科	2006年
生物資源開発学科	2018年
デザイン農学科	2018年
応用生物科学部	
バイオサイエンス学科	1998年
農芸化学科	1949年
醸造科学科	1953年
食品安全健康学科	2014年
栄養科学科	1962年

<学校等の名称>	<開設年度>
東京農業大学	
生命科学部	
バイオサイエンス学科	1998年
分子生命化学科	2017年
分子微生物学科	2017年
地域環境科学部	
森林総合科学科	1949年
生産環境工学科	1949年
造園科学科	1956年
地域創成科学科	2017年
国際食料情報学部	
国際農業開発学科	1956年
食料環境経済学科	1949年
国際バイオビジネス学科	1998年
国際食農科学科	2017年
生物産業学部	
北方圏農学科	1989年
海洋水産学科	2006年
食香粧化学科	1989年
自然資源経営学科	1989年
東京情報大学	
大学院総合情報学研究科	
総合情報学専攻	前期課程 1992年 後期課程 1999年
総合情報学部	
総合情報学科	1988年
看護学部	
看護学科	2017年
東京農業大学第一高等学校	
(全日制の課程) 普通科	1950年
東京農業大学第二高等学校	
(全日制の課程) 普通科	1962年
東京農業大学第三高等学校	
(全日制の課程) 普通科	1985年
東京農業大学第一高等学校中等部	2005年
東京農業大学第三高等学校附属中学校	2009年
東京農業大学稲花小学校	2019年

4 設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒児童数

(2019年5月1日現在)

(1) 東京農業大学大学院

(単位：人)

研究科・専攻等名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	収容定員(c)	現員(d)	d/c
大学院農学研究科	254	223	0.88	561	520	0.93
修士・博士前期課程	201	194	0.97	402	406	1.01
博士後期課程	53	29	0.55	159	114	0.72
農学専攻						
博士前期課程	14	14	1.00	28	28	1.00
博士後期課程	5	0	0.00	15	6	0.40
畜産学専攻						
博士前期課程	12	14	1.17	24	29	1.21
博士後期課程	4	2	0.50	12	5	0.42
バイオセラピー学専攻						
博士前期課程	10	5	0.50	20	20	1.00
博士後期課程	3	2	0.67	9	4	0.44
バイオサイエンス専攻						
博士前期課程	30	33	1.10	60	77	1.28
博士後期課程	6	2	0.33	18	14	0.78
農芸化学専攻						
博士前期課程	25	22	0.88	50	49	0.98
博士後期課程	5	2	0.40	15	7	0.47
醸造学専攻						
博士前期課程	12	22	1.83	24	53	2.21
博士後期課程	2	4	2.00	6	10	1.67
食品栄養学専攻						
博士前期課程	12	3	0.25	24	6	0.25
博士後期課程	2	2	1.00	6	8	1.33
林学専攻						
博士前期課程	12	10	0.83	24	17	0.71
博士後期課程	4	1	0.25	12	3	0.25
農業工学専攻						
博士前期課程	8	10	1.25	16	14	0.88
博士後期課程	2	1	0.50	6	7	1.17
造園学専攻						
博士前期課程	12	9	0.75	24	15	0.63
博士後期課程	3	0	0.00	9	4	0.44
国際農業開発学専攻						
博士前期課程	12	21	1.75	24	42	1.75
博士後期課程	2	3	1.50	6	16	2.67
農業経済学専攻						
博士前期課程	10	7	0.70	20	9	0.45
博士後期課程	5	2	0.40	15	9	0.60
国際バイオビジネス学専攻						
博士前期課程	12	7	0.58	24	12	0.50
博士後期課程	5	3	0.60	15	6	0.40
環境共生学専攻						
博士後期課程	5	5	1.00	15	15	1.00
食品安全健康学専攻						
修士課程	20	17	0.85	40	35	0.88
大学院生物産業学研究科	28	30	1.07	64	58	0.91
博士前期課程	20	19	0.95	40	43	1.08
博士後期課程	8	11	1.38	24	15	0.63
生物生産学専攻						
博士前期課程	7	4	0.57	14	8	0.57
アクアバイオ学専攻						
博士前期課程	5	7	1.40	10	8	0.80
食品香料学専攻						
博士前期課程	5	7	1.40	10	21	2.10
産業経営学専攻						
博士前期課程	3	1	0.33	6	6	1.00
生物産業学専攻						
博士後期課程	8	11	1.38	24	15	0.63
東京農業大学大学院 計	282	253	0.90	625	578	0.92

学校法人 東京農業大学 2019

(2) 東京農業大学

学部・学科等名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	編入学定員	編入学者	転入学定員	転入学者	収容定員(c)	現員(d)	d/c
農学部	558	592	1.06	36	1	-	-	2,268	2,411	1.06
農学	170	179	1.05	16	-	-	-	812	878	1.08
動物科学	140	146	1.04	10	1	-	-	660	693	1.05
ハイオセラピー学	-	-	-	10	-	-	-	300	320	1.07
生物資源開発学	125	136	1.09	-	-	-	-	250	262	1.05
デザイン農学	123	131	1.07	-	-	-	-	246	258	1.05
応用生物科学部	570	592	1.04	-	4	-	-	2,414	2,607	1.08
ハイオサイエンス学	-	-	-	-	-	-	-	150	175	1.17
農芸化学	150	155	1.03	-	1	-	-	590	635	1.08
醸造学	150	156	1.04	-	3	-	-	600	661	1.10
食品安全健康学	150	157	1.05	-	-	-	-	590	642	1.09
栄養学	120	124	1.03	-	-	-	-	484	494	1.02
生命科学部	410	441	1.08	-	-	-	-	1,190	1,255	1.05
ハイオサイエンス学	150	156	1.04	-	-	-	-	440	467	1.06
分子生命化学	130	133	1.02	-	-	-	-	375	388	1.03
分子微生物学	130	152	1.17	-	-	-	-	375	400	1.07
地域環境科学部	490	506	1.03	-	6	-	2	1,869	2,019	1.08
森林総合学	130	134	1.03	-	2	-	1	526	582	1.11
生産環境工学	130	133	1.02	-	-	-	1	523	560	1.07
造園学	130	135	1.04	-	2	-	-	540	584	1.08
地域創成学	100	104	1.04	-	2	-	-	280	293	1.05
国際食料情報学部	600	629	1.05	-	4	-	1	2,315	2,506	1.08
国際農業開発学	150	152	1.01	-	3	-	-	590	635	1.08
食料環境経済学	190	197	1.04	-	1	-	1	790	871	1.10
国際ハイオビジネス学	150	163	1.09	-	-	-	-	615	662	1.08
国際食農学	110	117	1.06	-	-	-	-	320	338	1.06
生物産業学部	350	379	1.08	27	1	-	1	1,454	1,531	1.05
北方圏農学	100	113	1.13	10	1	-	-	420	443	1.05
海洋水産学	80	85	1.06	-	-	-	-	320	350	1.09
食香粧化学	80	85	1.06	12	-	-	-	344	350	1.02
自然資源経営学	90	96	1.07	5	-	-	1	370	388	1.05
東京農業大学 計	2,978	3,139	1.05	63	16	-	4	11,510	12,329	1.07

(3) 東京情報大学大学院

研究科・専攻等名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	収容定員(c)	現員(d)	d/c
大学院総合情報学研究科	18	7	0.39	39	15	0.38
総合情報学専攻						
博士前期課程	15	6	0.40	30	11	0.37
博士後期課程	3	1	0.33	9	4	0.44
東京情報大学大学院 計	18	7	0.39	39	15	0.38

(4) 東京情報大学

学部・学科名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	編入学定員	編入学者	収容定員(c)	現員(d)	d/c
総合情報学部 総合情報学	400	484	1.21	10	4	1,720	1,762	1.02
看護学部 看護学	100	74	0.74	-	-	300	265	0.88
東京情報大学 計	500	558	1.12	10	4	2,020	2,027	1.00

(5) 東京農業大学第一・第二・第三高等学校

高校・課程等名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	収容定員(c)	現員(d)	d/c
東京農業大学第一高等学校 全日課程普通科	325	362	1.11	975	1,048	1.07
東京農業大学第二高等学校 全日課程普通科	520	594	1.14	1,560	1,672	1.07
東京農業大学第三高等学校 全日課程普通科	400	538	1.35	1,200	1,249	1.04
高校 計	1,245	1,494	1.20	3,735	3,969	1.06

(6) 東京農業大学第一高等学校中等部・第三高等学校附属中学校

中学校名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	収容定員(c)	現員(d)	d/c
東京農業大学第一高等学校中等部	175	186	1.06	525	539	1.03
東京農業大学第三高等学校附属中学校	70	66	0.94	210	164	0.78
中学校 計	245	252	1.03	735	703	0.96

(7) 東京農業大学稲花小学校

小学校名	入学定員(a)	入学者(b)	b/a	収容定員(c)	現員(d)	d/c
東京農業大学稲花小学校	72	72	1.00	72	72	1.00
小学校 計	72	72	1.00	72	72	1.00

5 設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒児童数

(1) 東京農業大学大学院

(2019年5月1日現在)

(単位：人)

東京農業大学大学院 研究科・専攻等名	1年			2年			3年			男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
大学院農学研究科	130	93	223	171	92	263	27	7	34	328	192	520	
	博士前期課程	111	83	194	132	80	212				243	163	406
	博士後期課程	19	10	29	39	12	51	27	7	34	85	29	114
農学専攻	博士前期課程	10	4	14	12	2	14				22	6	28
	博士後期課程	0	0	0	4	1	5	1	0	1	5	1	6
畜産学専攻	博士前期課程	6	8	14	7	8	15				13	16	29
	博士後期課程	2	0	2	1	0	1	2	0	2	5	0	5
バイオセラピー学専攻	博士前期課程	4	1	5	6	9	15				10	10	20
	博士後期課程	1	1	2	1	0	1	1	0	1	3	1	4
バイオサイエンス専攻	博士前期課程	25	8	33	31	13	44				56	21	77
	博士後期課程	2	0	2	7	0	7	5	0	5	14	0	14
農芸化学専攻	博士前期課程	10	12	22	21	6	27				31	18	49
	博士後期課程	1	1	2	3	2	5	0	0	0	4	3	7
醸造学専攻	博士前期課程	11	11	22	18	13	31				29	24	53
	博士後期課程	4	0	4	2	2	4	1	1	2	7	3	10
食品栄養学専攻	博士前期課程	2	1	3	2	1	3				4	2	6
	博士後期課程	0	2	2	0	2	2	3	1	4	3	5	8
林学専攻	博士前期課程	6	4	10	3	4	7				9	8	17
	博士後期課程	1	0	1	1	0	1	1	0	1	3	0	3
農業工学専攻	博士前期課程	6	4	10	2	2	4				8	6	14
	博士後期課程	0	1	1	6	0	6	0	0	0	6	1	7
造園学専攻	博士前期課程	5	4	9	4	2	6				9	6	15
	博士後期課程	0	0	0	1	1	2	2	0	2	3	1	4
国際農業開発学専攻	博士前期課程	11	10	21	15	6	21				26	16	42
	博士後期課程	2	1	3	4	3	7	4	2	6	10	6	16
農業経済学専攻	博士前期課程	4	3	7	1	1	2				5	4	9
	博士後期課程	2	0	2	2	1	3	3	1	4	7	2	9
国際バイオビジネス学専攻	博士前期課程	1	6	7	1	4	5				2	10	12
	博士後期課程	2	1	3	1	0	1	1	1	2	4	2	6
環境共生学専攻	博士後期課程	2	3	5	6	0	6	3	1	4	11	4	15
食品安全健康学専攻	修士課程	10	7	17	9	9	18				19	16	35
大学院生物産業学研究科		22	8	30	14	10	24	2	2	4	38	20	58
	博士前期課程	13	6	19	14	10	24				27	16	43
	博士後期課程	9	2	11	0	0	0	2	2	4	11	4	15
生物生産学専攻	博士前期課程	2	2	4	3	1	4				5	3	8
アクアバイオ学専攻	博士前期課程	6	1	7	1	0	1				7	1	8
食品香粧学専攻	博士前期課程	4	3	7	8	6	14				12	9	21
産業経営学専攻	博士前期課程	1	0	1	2	3	5				3	3	6
生物産業学専攻	博士後期課程	9	2	11	0	0	0	2	2	4	11	4	15
東京農業大学大学院 計		152	101	253	185	102	287	29	9	38	366	212	578

(2) 東京農業大学

東京農業大学 学部・学科等名		1年			2年			3年			4年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農学 部		362	239	601	329	243	572	330	265	595	378	265	643	1,399	1,012	2,411
農学 部	農学 学科	123	59	182	117	61	178	171	77	248	196	74	270	607	271	878
	畜産学 学科	0	0	0	1	1	2	106	92	198	115	89	204	222	182	404
	バイオセラピー 学科	0	0	0	2	0	2	53	96	149	67	102	169	122	198	320
	動物科学 学科	74	73	147	70	72	142	0	0	0	0	0	0	144	145	289
	生物資源開発学 学科	96	42	138	85	39	124	0	0	0	0	0	0	181	81	262
デザイン農学 学科	69	65	134	54	70	124	0	0	0	0	0	0	123	135	258	
応用生物 科学部		198	400	598	196	410	606	208	388	596	322	485	807	924	1,683	2,607
応用生物 科学部	バイオサイエンス 学科	1	0	1	1	0	1	5	0	5	88	80	168	95	80	175
	生物応用化学 学科	0	1	1	3	2	5	82	72	154	74	83	157	159	158	317
	農芸化学 学科	61	94	155	59	104	163	0	0	0	0	0	0	120	198	318
	醸造科学 学科	75	84	159	71	89	160	70	95	165	84	93	177	300	361	661
	食品安全健康学 学科	51	107	158	48	107	155	40	110	150	66	113	179	205	437	642
	栄養科学 学科	10	114	124	14	108	122	11	111	122	10	116	126	45	449	494
生命 科学部		235	207	442	233	188	421	219	173	392	0	0	0	687	568	1,255
生命 科学部	バイオサイエンス 学科	81	75	156	87	70	157	86	68	154	0	0	0	254	213	467
	分子生命化学 学科	71	62	133	78	54	132	73	50	123	0	0	0	222	166	388
	分子微生物学 学科	83	70	153	68	64	132	60	55	115	0	0	0	211	189	400
地域環境 科学部		364	149	513	345	168	513	336	155	491	340	162	502	1,385	634	2,019
地域環境 科学部	森林総合科学 学科	93	42	135	95	40	135	94	45	139	123	50	173	405	177	582
	生産環境工 学科	117	19	136	111	26	137	109	26	135	122	30	152	459	101	560
	造園科学 学科	76	62	138	73	60	133	75	61	136	95	82	177	319	265	584
	地域創成科学 学科	78	26	104	66	42	108	58	23	81	0	0	0	202	91	293
国際食料情報学部		381	250	631	369	258	627	370	252	622	389	237	626	1,509	997	2,506
国際食料情報学部	国際農業開発学 学科	84	68	152	80	71	151	85	72	157	93	82	175	342	293	635
	食料環境経済学 学科	135	62	197	140	63	203	142	64	206	174	91	265	591	280	871
	国際バイオビジネス 学科	121	44	165	106	54	160	109	42	151	122	64	186	458	204	662
	国際食農科学 学科	41	76	117	43	70	113	34	74	108	0	0	0	118	220	338
生物産業 学部		267	112	379	261	111	372	258	110	368	279	133	412	1,065	466	1,531
生物産業 学部	北方圏農学 学科	83	30	113	69	30	99	0	0	0	0	0	0	152	60	212
	海洋水産学 学科	69	16	85	72	15	87	0	0	0	0	0	0	141	31	172
	食香粧化学 学科	31	54	85	32	53	85	0	0	0	0	0	0	63	107	170
	自然資源経営学 学科	84	12	96	78	12	90	0	0	0	0	0	0	162	24	186
	生物生産学 学科	0	0	0	2	1	3	74	35	109	79	40	119	155	76	231
	アクアバイオ学 学科	0	0	0	4	0	4	64	17	81	75	18	93	143	35	178
	食品香粧学 学科	0	0	0	2	0	2	34	48	82	36	60	96	72	108	180
	地域産業経営学 学科	0	0	0	2	0	2	86	10	96	89	15	104	177	25	202
東京農業大学 計		1,807	1,357	3,164	1,733	1,378	3,111	1,721	1,343	3,064	1,708	1,282	2,990	6,969	5,360	12,329

(3) 東京情報大学大学院

東京情報大学大学院 研究科・専攻等名		1年			2年			3年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
大学院総合情報学研究科		7	0	7	6	0	6	1	1	2	14	1	15
総合情報学 専攻	博士前期課程	6	0	6	5	0	5				11	0	11
	博士後期課程	1	0	1	1	0	1	1	1	2	3	1	4
東京情報大学大学院 計		7	0	7	6	0	6	1	1	2	14	1	15

(4) 東京情報大学

東京情報大学 学部・学科等名		1年			2年			3年			4年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合情報 学部		441	43	484	443	43	486	337	35	372	377	43	420	1,598	164	1,762
総合情報 学部	総合情報学 学科	441	43	484	443	43	486	337	35	372	377	43	420	1,598	164	1,762
	看護 学部	20	54	74	19	60	79	25	87	112	0	0	0	64	201	265
看護 学部		20	54	74	19	60	79	25	87	112	0	0	0	64	201	265
東京情報大学 計		461	97	558	462	103	565	362	122	484	377	43	420	1,662	365	2,027

(5) 東京農業大学第一・第二・第三高等学校

高校・課程等名		1年			2年			3年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
東京農業大学第一高等学校 全日課程普通科		205	157	362	190	149	339	211	136	347	606	442	1,048
東京農業大学第二高等学校 全日課程普通科		312	282	594	283	278	561	253	264	517	848	824	1,672
東京農業大学第三高等学校 全日課程普通科		363	175	538	249	98	347	235	129	364	847	402	1,249
計		880	614	1,494	722	525	1,247	699	529	1,228	2,301	1,668	3,969

(6) 東京農業大学第一高等学校中等部・第三高等学校附属中学校

中学校名		1年			2年			3年			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
東京農業大学第一高等学校中等部		84	102	186	81	103	184	81	88	169	246	293	539
東京農業大学第三高等学校附属中学校		46	20	66	26	17	43	32	23	55	104	60	164
計		130	122	252	107	120	227	113	111	224	350	353	703

(7) 東京農業大学稲花小学校

小学校名		1年		
		男	女	計
東京農業大学稲花小学校		36	36	72
計		36	36	72

	男	女	計
学生生徒数 合計	11,698	7,995	19,693

6 役員・教職員の概要

(1) 役員・評議員

(2020年3月31日現在)

役員(19人)				評議員(55人)				
理事長	大澤 貫寿	理事	菅原 哲朗	高野 克己	萬歳 章	井関 文一	石原憲一郎	李代 鉄幸
常務理事	高野 克己	〃	福島 哲男	鈴木 昌治	多田耕太郎	永井 保夫	大場 淳一	吉田 廣文
〃	志和地弘信	〃	尾崎 義人	夏秋 啓子	馬場 正	石川 浩一	小野 甲二	植原 秀弥
〃	渡邊 文雄	〃	鈴木 昭憲	新部 昭夫	上原万里子	小畑 幹夫	小椋山善継	輿石 勉
理事	鈴木 昌治	〃	吉田 岳志	山本 祐司	江口 文陽	梶山 孝泉	斎藤 謙吾	清水 洋
〃	星野喜代美	監事	今井 教文	加納佳代子	寺本 明子	松丸 禎二	佐竹 弘通	友田 雅明
〃	馬場 正	〃	久保田紀久枝	星野喜代美	野口 智弘	秋元 尚美	鈴木 崇之	淺見 紀夫
〃	矢嶋 俊介	〃	高梨 雅明	田中 越郎	古庄 律	加藤 秀隆	高橋 敬明	海野 一幸
〃	萬歳 章			大西 修	矢嶋 俊介	神山 達人	田沼 征彦	黒柳 俊之
〃	小野 甲二			金田 喜明	佐藤 広顕	小杉 雅彦	早坂 有弘	三上 光一
〃	手島 秀樹			志和地弘信	吉田 穂積	阿曾田 清	本田 秀逸	水谷 洋一

※ 記載順は、寄附行為に定められた順番で記載しております。

(2) 教職員数

	専任職員	嘱託職員等	研究員等	臨時雇	非常勤講師	学校医等	総合計
男	660	86	13	19	449	19	1,246
女	210	51	15	72	204	13	565
計	870	137	28	91	653	32	1,811

(2019年5月1日現在)

		東京農業大学										東京情報大学				高等学校				東京農業大学附属小学校		小計		総合計						
		農学	応用生命	生体環境	地域食料	国際産業	生物資源	教職・学術情報	学長室・大学	事務局	各(世田谷)	厚木キャンパス	オホホリ	総合情報	情報サービス	事務局	他	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
専任職員	学長																	1											2	
	副学長																													
	教授	31	30	19	40	36	26	3										185	15	6	1					21	206		266	
	准教授	5	7	2	1	6	1	2										24	1	1						1	25		25	
	講師	21	20	13	20	15	17	3										109	20	4	4					24	133		133	
	助教	3	4	2	6	5	1											21	4	4	4					8	29		29	
	助教	15	18	8	7	9	5	1										63	3	9	6					12	75		75	
	総務	8	5	2	3	2	2	1										23	9	6	6					6	29		29	
	校長	1																												1
	副校長	1																												3
教頭																														
教諭	1																										46	60	49	155
計	2	67	68	40	67	60	48	7	1								358	38	25	1					64	422		621		
一般職員	59	16	1	2	3	3		8	72	22	17	144					68	4	17	1					21	21	52	140		
合計	61	83	68	41	69	63	51	7	9	72	22	17	502	38	25	4	21	88	590	54	67	54	175	25	10	35	9	870		
特任・嘱託・助手	4	15	14	8	5	8	6	6	14	1	4	81	11	1	2	8	22	103	6	9	8	23	1	4	5	10		137		
博士研究員	2	3	10	2	1	1	7										26	2								28		28		
学術研究員・RA	1	2	7	1	1	1	3										15									70		71		
臨時雇	2	6	3	4	4	4	9	1	16		17	64					15									6		91		
非常勤講師	1																	410	61	48	2					111	521	25	653	
学校医・カウンセラー等			354															102	10	20						30	132		204	
総合計	70	17	767	205	121	23	9	110	23	39	1,092	112	74	8	37	231	1,323	96	140	105	341	46	16	62	15	15	1,811			

注1) 表中「*」印は教授が、「**」印は准教授が、「***」印は校長が、「****」印は教諭が兼務していることを示し、集計からは除外している。
 注2) 東京農業大学学長は「学長室・大学改革推進室」に、東京情報大学学長は「情報サービスセンター・総合情報研究所」に集計している。
 注3) 各欄の上段は合計数を示し、下段は女性の数を内数で示している。
 注4) 非常勤講師は主たる勤務先に計上している(参与・臨床教員・クラブ指導者を含む)。

III 事業の概要

2019（令和元）年度事業の概要は、次のとおりです。

1 学校法人の取組み

(1) 学校法人東京農業大学中期計画と中長期財政計画

学校法人東京農業大学は、4年ごとに中期計画を策定しています。2019（令和元）年度は、第3期中期計画（N2022）及び「中長期財政計画」（N2026）の初年度でした。

「中期計画 N2022」の基本方針は、①社会的存在価値の高い教育研究機関としての使命を果たす、②学園体制による質が高く特色がある教育研究の展開、③創立 150 周年に向けたビジョン、④法人経営と学校運営の高度化に資する事務組織改革・事務システム再構築、組織的研修制度の構築、です。中長期財政計画においては、基本理念を「経営・財政の安定なくして教育研究の充実・発展なし」とし、「中期計画 N2022」の実現を財政的に担保するとともに、部門独立採算を厳格化し、安定財政の確立を目的としています。

財政については、財務指標を設定しました。他大学との比較において良好な水準です。特に健全性や成長性の指標では、主要私立大学の中でも上位につけており、教育研究活動を安定的に維持するための財政基盤を確立しています。

2019（令和元）年度中の主な事業としては、世田谷キャンパス新研究棟（サイエンスポート）及び厚木キャンパス実験実習棟が完成しました。2018（平成 30）年度から検討してきた事務組織改編内容がまとめられ、2020（令和 2）年 4 月から新事務組織がスタートします。法人本部は、理事会（理事長）の意思決定に資するため、①企画機能の強化、②経営効率の向上、③俯瞰的機能の強化、④内部統制の維持・強化の観点から総務・人事部、財務・施設部、経営企画部の設置、東京農業大学は、学生サービスの充実・向上を学生目線に立つて行うと共に、教職協働の観点から世田谷キャンパス学部事務室の設置、大学運営の司令塔として企画機能強化のため企画広報室の設置、運営管理機能の強化のための大学総務部の設置、東京情

報大学は、学長を補佐するための秘書機能や企画・IR機能強化のために企画調整課の設置、また、併設校の運営を統括する統括学校長のガバナンス支援業務を担う初等中等教育学校事務部の設置となっています。さらに、事務組織改革をより実効性の高いものにするため事務システムの再構築を計画しており、勤怠管理システムの試験導入を開始し、2020（令和 2）年度中の本格稼働に向けて準備を進めています。

(2) 東京農業大学稲花小学校開校

第2期中期事業計画（N2018）以降、東京農業大学を中核とした法人の学園化構想を具現化するため、東京農業大学の持つ教育研究資源を生かした小中高大の一貫教育体制の構築を目指してきました。その核ともいえる東京農業大学稲花小学校が、2019（平成 31）年 4 月 1 日に開校しました。東京 23 区内では 59 年ぶりの私立小学校開校です。第 1 回入学式を 4 月 6 日に挙行し、入学試験の難関を突破した第 1 期生 72 人が入学し、特色ある教育プログラムのもと勉学に励んでいます。



(3) 東京農大オープンカレッジ開校

前年度から小田急電鉄株式会社が小田急線世田谷代田駅再開発エリアに開設する世田谷代田キャンパス内に「東京農大オープンカレッジ」を開校する準備を進めてきました。開校の目的は、①地域等との連携、②ブランド力向上、③生涯学習、のための事業を展開することです。

開設準備が整った4月13日に、開校式、記念講演会及び日本酒試飲会を開催しました。同日は、世田谷代田キャンパスのオープニングも同時に行われ、多くの来場者で賑わいました。

5月からはカレッジ講座をスタートさせました。テーマは、「食」「趣味・教養」「花・緑」「資格検定」等のほか子供向けの講座も開講しています。

オープンカレッジ内に、東京農業大学関連グッズや卒業生が製造した食品を販売するアンテナショップ『「農」の蔵』を設置したほか、

7月からは月2回朝市を開催しており、開校目的の実現に努めています。



(4) 発明協会との包括連携協定

2019（令和元）年10月7日に公益社団法人発明協会と包括連携協定を締結しました。発明協会は、発明の奨励や産業財産の普及啓発、青少年創造性育成事業を行う法人です。

包括連携協定締結により、本法人は知的財産活動及び産官学連携等に係る支援を受けることが期待できます。また、少年少女発明クラブの共同開催により社会貢献とPR効果が期待できます。



左：学校法人東京農業大学大澤貫寿理事長
右：公益社団法人発明協会中嶋誠副会長

2 教育の推進・社会貢献

(1) 東京農業大学

① 東京農業大学の改革

■ <学部を基礎とした研究科の新設>

○本学の教育研究の社会的ニーズ及び貢献領域の変化並びに拡大に対応し、教育研究の更なる質的向上と充実を促進するため、2017（平成29）年度及び2018（平成30）年度に学部の改編（学部学科設置、収容定員見直し等）を行いました。

2019（令和元）年度は、学部改組と同期し、学部と大学院が一貫した高度で特色のある教育研究体制を実現するため、学部を基礎とした研究科設置準備を進めました。2020（令和2）年度に応用生物科学研究科、2021（令和3）年度に生命科学科、地域環境科学研究科及び国際食料農業科学研究科（いずれも仮称）の設置を計画しています。

② 建学の精神、教育研究の理念の浸透

■ <教育の質的転換の促進>

- 本学は、建学の精神「人物を畑に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、本学の学びを通して「生きる力」を育み、「農のこころ」をもって社会の発展に寄与する人材を輩出することを使命としています。これらの理念・目的に則した「教育研究上の目的」、「教育目標」及び「3つの方針（AP、DP、CP）」を学部、学科ごとに定め、2021（令和3）年度には新カリキュラムを導入する（世田谷キャンパス）計画を進めています。
- 本年度は、大学基準協会による大学認証評価を受審し、同協会の大学基準に適合していると認定を受けました（認定の期間は、2020（令和2）年4月1日～2027（令和9）年3月31日）。指摘事項等については、改善するための学則改正を行うとともに、「教育の質保証」を加速化するため、教学検討委員会内に10のワーキンググループを組織し、課題解決のための検討を進めています。

③ 大学院教育の充実

■ <学内外への大学院の研究力の発信>

- 2018（平成30）年度、大学院の研究活動を学内外に発信することを目的に実施された農学研究科5専攻によるポスター発表会を、2019（令和元）年度は「東京農大大学院生研究ポスター発表会—研究のタネ、探してみませんか！—」と題して世田谷キャンパス桜丘アリーナにて開催しました。参加対象は農学研究科、生物産業学研究科の全専攻（20専攻）、ポスター総数257枚となる盛大な発表会となり、企業等学外からの80人の来場者を含め、1,700人を超える来場者を得ることができ、ポスター発表会後に開催した意見交換会では活発なディスカッションが行われました。大学院生の研究力の企業等外部への発信、大学院生の情報発信力の涵養、学部学生への大学院進学情報の提供及び大学院進学への動機づけ、他専攻大学院生、他専攻教員との交流といった当初の目的を果たすことができました。また、生物産業学研究科では、北海道オホーツクキャンパスにおいて、2019（令和元）年11月5～7日に全専攻による「大学院研究発表会」を開催し、57人の学生が、学部学生や大学院生、教員等に対して、自らの研究成果の発表を行いました。

④ 入学志願者の確保

■ <新たな入試制度の導入>

- キャリアデザインAO入試等4つの入試制度を新設して入学志願者の確保に努めました。
- 外国人指定日本語学校推薦入試の対象学科を全学に拡大して留学生の確保に努めました。
- ##### ■ <直接的広報の充実>
- 従前からの直接受験生に本学の魅力を伝える高校訪問、各種進学相談会、高校等への出張講義に加え、世田谷キャンパスに高校教員を招いての大学説明会を初めて実施しました。
- 台湾における進学相談会及び高校での大学説明会を実施しました。

⑤ グローバル人材の育成及び確保

- 2015（平成27）年度に文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択され、5カ年計画で実施した「中南米地域における食・農・

環境分野の実践的な専門家育成事業」が2019(令和元)年度をもって終了しました。事業期間5年間での派遣学生数は延べ88人、受入学生数は延べ122人に上り、それぞれ事業開始前の2.93倍と7.6倍に増加しました。

本学が長年に渡り積み重ねてきた教育活動や研究成果が最大限に活用されているとして、事業3年目にあたる2017(平成29)年度に中間評価を受審し、「A(総括評価)」と評価されています。2020(令和2)年度には事後評価が行われる予定です。

- 英語力を高めるTOEIC講座、TOEFL講座に加え、2019(令和元)年度からオンライン英会話プログラムの提供を開始しました。
- 外国人留学生を対象としたレベル別・目的別の日本語講座(初心者から、日本での就職を目指す留学生まで)を開講しました。また、学習意欲の高い留学生をサポートするため日本語能力試験の検定料補助制度を開始しました。

■<海外大学及び国際機関との協力協定の促進>

- 海外大学、国際機関との協力協定を促進しています。2019(令和元)年度に締結した海外大学及び国際機関は次のとおりです。
 - ・ネパール農林業大学(ネパール)
 - ・西シドニー大学(オーストラリア)

⑥ 学生支援・学生の満足度向上

■<心と体の健康に係る管理体制の充実>

- 世田谷キャンパスにおいては、2018(平成30)年度から臨床心理士を増員し、毎日相談できる体制を整えました。解決型の指導を行うことにより、延べの相談回数は減少しましたが、相談者数は増え、より多くの学生を支援できるようになりました。
- 厚木キャンパスにおいては、学部2年生以上及び大学院生向けにハラスメント講習会(4月6日)を実施し、新入生向けにハラスメント講習会(5月15日)を実施し、ハラスメント防止に努めました。
- 北海道オホーツクキャンパスでは、本年度も地域の特色を踏まえた新入生対象の各種セミナーとして、一人暮らしの防犯対策、情報リテラシー、メンタルケア、暴風雪等のセミナーを開催し、学生が安全な生活環

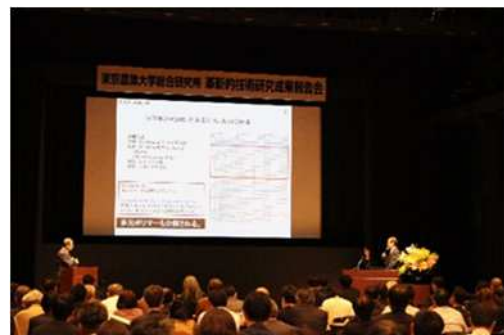
境の中で安心して学ぶための支援事業を実施しました。

- 3キャンパスにおいて教員による研究室を通じての学生教育を徹底し、退学・留年の防止やキャリア支援に努めました。

⑦ 研究成果の社会貢献展開

■<研究成果報告>

- 昨年度に引き続き「東京農業大学 革新的技術研究成果報告会」と題し、2019(令和元)年12月18日丸ビルホールにて、学内資金による6つの研究プロジェクトの一般向け報告会を実施しました。第1部では「学部長主導型研究プロジェクト」の成果として、アザラシの生態系サービスと有効利用の可能性(生物産業学部)、東京農大オリジナルの「栄養強化米」開発(応用生物科学部)、農大発の画期的な「生分解性プラスチック」(生命科学部)について報告がありました。第2部では、総合研究所が中心となって、本学の「特色・強み」を具体的に引き出すために立ち上げた「ロシア共同研究プロジェクト」「大学戦略研究プロジェクト」「農研機構とのマッチングファンド型共同研究プロジェクト」「大学院先導の実学研究プロジェクト」「ゲノム育種プロジェクト」より、それぞれの成果について報告がありました。夕方からの情報交換会では、6次産業化を目指した研究成果として「農大和牛」を初めて披露する試食会を催し、多くのメディアによる取材を受けました。



革新的技術研究成果報告会(丸ビルホール)

■<企業・他機関との連携>

- 株式会社新宿高野、株式会社タカノフルーツパーラーと2019(令和元)年8月20日に

包括連携協定を締結しました。高級フルーツおよびギフトを取り扱う前者および店舗で供する後者と本学との連携により、魅力ある国内農産物の生産と産地・生産者を応援し、農業および関連産業を盛り上げ、また、学術研究による新たな農産物・栽培等々の挑戦・情報を社会にとともに発信していくことを目指しています。



左から、東京農業大学高野克己学長、株式会社新宿高野および株式会社タカノフルーツパーラー高野吉太郎代表取締役

○東京農業大学生物産業学部が2013(平成25)年4月1日に株式会社アルビオンと連携協定を締結した後、連携・共同研究を進め、寄付講義を実施した他、様々な連携事業を行ってきました。そして、2019(令和元)年10月30日に、東京農業大学として新たに株式会社アルビオンと包括連携協定を締結し、全学部(6学部23学科)での連携を強化していくこととなりました。当日は、締結を記念して、高野克己学長および小林章一代表取締役社長の講演会を開催し、終了後はレストランすずしろにおいて、株式会社アルビオンが植物研究のためにスリランカにスリランカ伝統植物研究所を開設していることにちなみ、スリランカ文化の体験イベントを実施しました。また、オホーツクキャンパスでは、株式会社アルビオンの製造、研究、開発、広報、営業など各部署の社員の方々が講師となり、化粧品メーカーの実際を学ぶ講義が始まっています。



左から、東京農業大学高野克己学長、株式会社アルビオン小林章一代表取締役社長



当日ポスター

○企業・他機関との連携を強化し、研究成果の社会貢献展開を促進するため、令和元年度には、次の企業等と連携協定を締結しました。

※()内は協定締結日

- ・ 株式会社新宿高野、株式会社タカノフルーツパーラー
(2019(令和元)年8月20日)
- ・ 株式会社アルビオン
(2019(令和元)年10月30日)
- ・ 株式会社ウェルシヤンバイオテクノロジー
(2019(令和元)年11月6日)
- ・ 株式会社パスコ、東京情報大学
(2019(令和元)年12月23日)
- ・ 万田発酵株式会社
(2020(令和2)年1月22日)

⑧ 地域連携

■ <地域に愛される大学としての地元地域との連携>

- 世田谷キャンパスでは、世田谷区と区内大学との連携事業を推進しています。近隣商店街や町内会との積極的な交流も行っています。
- 厚木キャンパスでは、地域イベントである応援演奏、出張演舞やボランティア活動など部、同好会が積極的に参加し、地域との交流を深めました。令和元年度の実績は、イベントやボランティア活動を含め合計100回の参加となりました。
- 北海道オホーツクキャンパスでは「地域がキャンパス」を学びの方針の一つに掲げ、地域住民参加型の体育祭の開催、網走マラソンボランティアへの参加、地域との協働によるオホーツク農大マルシェの開催など本年度も地域との連携事業を積極的に推進しました。



地域に定着したオホーツク農大マルシェ

■ <自治体等との連携>

2019（令和元）年度は、次の自治体等と連携協定を締結し、前年度までと合わせ62団体となりました。

- ・兵庫県南あわじ市（2019（令和元）年5月13日）
- ・あわじ島農業協同組合（2019（令和元）年5月13日）
- ・和歌山県太地町（2019（令和元）年5月15日）
- ・太地町漁業協同組合（2019（令和元）年5月15日）
- ・太地水産共同組合（2019（令和元）年5月15日）

⑨ 周年記念事業

- 食料環境経済学科（東京都世田谷）は、今年度開設80周年を迎え、記念式典（2019（令和元）年10月14日、横井講堂（世田谷キャンパス））を開催しました。



10月14日記念式典

(2) 東京情報大学

① 内部質保証

○PDCA サイクル等を適切に機能させ、教育の質を担保していくために、内部質保証委員会を設置し、2018（平成30）年度の自己点検評価実施の指示と点検評価結果に対する改善・向上策策定の指示をしました。また、2018（平成30）年度の自己点検評価結果を大学ホームページに公開しました。

② 教育研究組織の運営

- 総合情報学部総合情報学科は、2017（平成29）年度から3学系制へ改組し、学生は、1年次後期からそれぞれの学系に所属し、2年次後期からは、研究室制の導入に合わせ、研究室を選択し、早い段階から学系及び研究室に適した専門的な教育を受けています。3、4年次では、本格的に研究室活動に取り組みます。
 - 看護学部看護学科は、設置3年目となり、1～3年次併せて、11実習科目、154施設において臨地実習を実施しました。また、実習施設の実習担当者と本学教員とで実習指導者連絡会議を年2回開催し、本学の学びの方針等を相互に理解しあい、FD活動の一環にもしています。
- 完成年度を迎える来年度から開講する4年次の授業科目である統合実習と卒業論文ゼミナールに向けて運営準備を進めました。
- 大学院総合情報学研究科では、教育課程等を改正し、2020（令和2）年度に完成年度を迎える3学系制へ改組した総合情報学部と新設した看護学部の卒業生を2021（令和3）年度から受入れる準備を進めました。

③ 教育課程・学修成果の検証

- 総合情報学部総合情報学科では、学生の汎用的能力を測定するために外部のアセスメントを1、2年次に実施しています。その結果報告とディプロマ・ポリシーを関連付け、学生が身につけた知識・技術等との適切性について検証を進めます。次年度からは、看護学部の学生も実施する計画です。
- 総合情報学部の4年次の授業科目である「卒業研究Ⅱ（卒業論文）」を一定の基準で評価するためのガイドラインを策定し、来年度から適用することとしています。

○看護学部看護学科では、学習成果を可視化するために、一部の科目でルーブリック評価を導入し、客観的に評価できるようにし、ディプロマ・ポリシーと授業内容の適切性について検証を進めます。

④ 入学志願者の確保

■<入試制度の検証>

- 入試広報委員会において、これまでの志願動向を検証し、今後の入試制度の検討を進めています。
- 国の大学入学者選抜改革に伴う2021（令和3）年度大学入学者選抜についての本学の方針を2019（平成31）年3月に公開しました。

■<直接的広報に注力>

- 直接受験生に本学の魅力を伝える高校訪問、各種進学相談会、高校等への出張講義、大学見学者受入などを強化し、入学志願者の確保に努めました。

⑤ グローバル人材育成

- 看護学部看護学科の授業科目「看護とグローバルヘルスケア」（1年次前期・選択科目）において、カナダブロック大学の研修プログラム（21日間コース）を2019（令和元）年度も実施しました。6人の学生が参加し、ホームステイをしながら、①臨床実践英語の基礎、②臨床トレーニング、③地域のヘルスケア関連施設などについてフィールド調査を交えながら学びました。



カナダ研修プログラム

⑥ 学生支援・学生の満足度向上

■<心と体の健康に係る管理体制の充実>

- 学生の望まない受動喫煙をなくすため、既存の喫煙場所をすべて見直し、新たに受動

喫煙防止に対応した屋外喫煙所（1箇所）を設置しました。

■<国家試験対策>

○看護師免許取得のための支援は、講義・演習・実習を通して知識を統合し、授業毎の小テストや定期試験等で国家試験対策につながる重点的な知識のまとめを中心に実施していますが、それを補う対策として、3年次は模擬試験の実施と解説の他、全学生に看護師国家試験受験対策の e-Learning であるナースングナビゲーター（10分間テスト）を受講させております。1年間の実習期間中でもあるため、教員一人当たり5人程度の学生を受け持ち、メール等で進捗を定期的を確認することで、学生の勉強の後押しをしています。また1、2年生には解剖生理学などを範囲とする「低学年模試」を実施した後、知識を整理するために、「模擬試験問題」に対する学習ノートを作成させており、正誤を覚えるのではなく正誤の意味を分析、解釈、判断する学習形態を指導するための「わかる!できる!おもしろい!」解説集作成を通して、国家試験対策の準備を進めています。

⑦ 研究支援

○2019（令和元）年度における本学の研究支援として、①地域連携協定に基づく研究分野、②先端的分野探索のための研究を中核分野とし公募した結果、前者は10課題、後者は5課題（※28頁に詳細を記載）のプロジェクトを採択し研究を進めています。

⑧ 研究成果の社会貢献展開

■<企業・他機関との連携>

○企業・他機関との連携を強化し、研究成果の社会貢献展開を促進するため、2019（令和元）年度には、次の企業等と連携協定を締結しました。

- ・株式会社パスコ、東京農業大学
（2019（令和元）年12月23日締結）

⑨ 地域連携

■<地域社会が抱える課題の解決を図ることにより、「まちづくり」や「健康づくり」など地域活性化に貢献>

- 千葉県若葉区と共催で、地域連携フォーラム「意外と知らない！訪問看護のかしこい使い方」（2019（令和元）年5月25日）を本学にて開催し、地域の皆さんが訪問看護を予防的に活用し、病気とうまく付き合いながら、豊かな人生の時間をより長く送ることができる方法について話題提供等を行いました。
- 千葉県香取市との地域連携協定の一環として実施しているプロジェクト香取では、「佐原三菱館の歴史に関する調査（川崎財閥の歴史に関する調査）を行い、地域連携フォーラム「佐原三菱館を知る～川崎銀行が遺した建造物を巡る～」（2020（令和2）年2月19日）を佐原中央公民会で開催しました。
- 千葉市教育委員会との連携で、「中学生のあらたな職場体験の在り方」と題し、千城台西中学校2年生6人が本学の6研究室において8コマの講義を受講しました。単なる職場体験ではなく、先生方の研究内容と職業との関係等を説明し、超スマート社会といわれる現代から10年後の社会や職業について、自身の将来も見据えて考える機会を提供しました。
- 第27回若葉区民まつりを千葉県若葉区地域振興課と協力し、本学を会場として開催いたしました。

⑩ キャンパス環境整備

■<教育研究面における環境設備>

○教育研究を支えるネットワークインフラの強化と教育機関向けクラウドサービスを効率的に導入・利用できるようにするため、既存の情報教育システムを最新の環境に更新いたしました。

■<施設面における環境設備>

○1号館女子トイレの改修、4号館空調設備の更新、1号館非常放送設備の更新、3号館及び7号館防犯カメラ更新工事などを実施いたしました。

(3) 東京農業大学第一高等学校・同中部

① 生徒教育

■ <グローバル教育の充実>

- 英語力強化に向けた施策として、中等部1年に必修の「English Camp」(夏期・5日間英語漬け)を継続して実施しました。
- 中等部はオーストラリア・ケアンズ(11日間)、高校はオーストラリア・ブリスベン(15日間)の海外研修を実施しました。海外研修の事前学習ではしおりの作成や英会話の練習等を行ない、高校の事後学習ではドキュメンタリー映像を作成して文化祭で発表しました。高校の台湾サマーキャンプ(8日間)では、英語でプログラミングを学びました。
- 語学研修として、高校生を対象に、夏期(14日間)および冬期(14日間)のセブ島語学研修、3学期セブ島語学研修、高2(6週間)、高3(4週間)を実施しました。
- 英語体験学習プログラムとして、中等部2年生を対象に福島県にある「ブリティッシュヒルズ」での研修(3日間)を実施しました。
- 訪日研修生(スウェーデンの生徒1人)の体験入学受入れ(約1週間)をし、在校生がホストファミリーを務めました。訪日研修生(アメリカの生徒1人)の体験入学受入れ(1日)も行いました。
- 中等部2年、高校1年・2年でTOKYO GLOBAL GATEWAYに参加し、英語を用いて実践的かつ探究的な学習の場を体験しました。
- タイからの訪日団(タマサート大学高校生28人)の受け入れでは、研究発表のプレゼンテーション、授業見学等を実施しました。中国からの訪日団(上海市市北中学10人)の受け入れでは、歌や笛、太極拳を披露していただき、部活動の体験を通して相互交流を図りました。
- 外国人教員3人を確保して英会話の授業を継続しています。次年度は4人に増員予定です。



■ <教員の授業力向上に向けた施策の検討と実施>

- 授業力向上をテーマに外部委託によるFD研修を実施しました。(授業診断+座談会+分析報告会+個別面談15人と講演会2回)また、若手教員(約10人)を選抜し、進学実績向上のための研修会を実施しました。
- 授業の研鑽を行う取り組みとして、教員同士の相互授業参観を実施しました。
- 非常勤講師研修会、全校での校内研修会(テーマ:進学実績の更なる向上)、教科ごとの研修会(テーマ:授業力の向上を目的とし教科ごとに設定)を実施しました。
- 各教員が外部研修会に積極的に参加すると共に、協働学習を取り入れたアクティブラーニングの実践例に関する情報を積極的に収集しました。
- 研究紀要を発行しました。

■ <新制度入試への対応の検討と実施>

- 共通テスト対策模試を高校2年生対象で実施しました。
- 英語4技能の能力を伸ばすため、GTEC(英語4技能模試)を中等部1年生から高校2年生で実施しました。また、その中で中等部3年生から高校2年生はスピーキングテストを実施しました。
- 高校1・2年生でClassiを利用して、主体的活動の記録となるポートフォリオを蓄積しました。
- 2020(令和2)年度の高2からの教育課程の改定である世界史日本史選択者の「化学基礎」2単位と、「古典B」と「英語表現II」の単位数増加に伴ったシラバスの作成を行いました。



② 生徒支援

■ <進路指導の充実と強化>

- 受験対策委員会主導のもと、生徒の知的好奇心・発想力・思考力等を高めるため、「一高一高ゼミ」と題して30を超える様々なテーマについて発表・討論を行いました。その他、希望者を募っての東京大、東京理科大のキャンパス見学会、医学部志望者を募った駿台予備校講師によるガイダンスなどを行いました。
- 大学生活と受験勉強について卒業生と語る「卒業生を囲む会」を開催しました。
- 高校3年生全生徒を対象に学年団と進路指導部で、生徒の志望校を協議する「志望校検討会議」を行いました。

■ <キャリア教育の充実>

- 高校1年生を対象に進路・職業適性検査(リクルート)を実施しました。
- 高校1年生を対象に、保護者が自らの職業について講義を行う「キャリア授業」を開催しました。

③ 社会貢献

■ <地域社会への融和と協調>

- 世田谷区青少年上町地区委員会の活動に生徒が参加しました。
- 経堂農大通り商店街振興組合主催「経堂まつり」へ吹奏楽部及びチアリーディング部員が参加しました。
- 世田谷区青少年上町地区主催「子ども大会」にボランティアとして、中等部の福祉委員の生徒が参加しました。
- 世田谷区教育委員会主催「アドベンチャーin多摩川いかだ下り大会」へ生徒会役員生徒が参加しました。

④ 教育組織

■ <運営会議等の定例化>

- 校務部長会議を定例化して年間40回以上実施しました。
- 学年主任連絡会議を発足しました。
- 教育後援会および同窓会との連携を強化するために、定期的な情報交換を行いました。

⑤ 学習環境整備

■ <ICT教育の環境整備>

- 2016(平成28)年度の移動式電子黒板2台の導入に続き、2017(平成29)年度には、2018(平成30)年度画を立案し、2年目となる2019(令和元)年度は次の事業を実施しました。
 - ・1号館2階普通教室すべてにプロジェクター型電子黒板を導入
 - ・中等部第1学年全員に2in1PCを導入して授業等で活用開始
 - 3年目となる令和2年度は次の事業費を予算執行して実施する。
 - ・1号館3階及び4階(30教室)へのプロジェクター型電子黒板の導入
 - ・教員全員に2in1PCを導入して、授業や会議等で活用開始予定
- ### ■ <施設面における環境設備>
- 「中長期保全計画」に挙げられている体育館の改修工事の内の一部である3階トイレの改修工事を実施しました。
 - 1号館1階廊下の照明をLED化しました。
 - 1号館普通教室(特別教室含む)をすべてホワイトボードに取り替えました。
 - 中等部生機・椅子の取り替え(全て最新型へ)を予算化して、次年度執行予定です。

⑥ 管理運営

■ <学校運営の安定化>

- 授業料を改定し、ICT機器の整備をはじめとする生徒教育の充実に努めました。

■ <危機管理体制の充実>

- 危機管理委員会等の委員会の活動の充実に努めました。
- 生徒との個人面談はもとより、あらゆる場面で生徒がいじめに向かわない態度・能力の育成、家庭との緊密な連携に努めました。

■ <課外活動等>

- 馬術部
 - 第62回関東高等学校馬術選手権大会(個人戦) 第3位(2019(令和元)年6月)
 - 第30回全日本高等学校馬術選手権大会出場(2019(令和元)年8月)
 - 第55回関東高等学校自馬競技大会 団体優勝(2019(令和元)年12月)

(4) 東京農業大学第二高等学校

① 生徒教育

■ <学力の向上・進学指導の充実>

- 自学習時間調査を頻繁に行い、学習時間の向上を目指しました。
- 外部アドバイザーによる教員の授業指導 (FD) や予備校主催の大学入試対策講座を積極的に活用しています。
- コース主任を中心とした志望校検討会の実施により、進学指導の充実を図りました。
- ICT 教育導入のための教員研修として模擬授業を年間 8 回、16 科目で実施しました。
- 総合的探求の時間ではディベートやビブリオバトルなどの発表学習を取り入れ、プレゼンテーション能力の向上に努めました。
- 放課後にプログラミング講座を開始し、多くの生徒が参加しました。また、台湾での英語によるプログラミング講座も実施しました。
- 保護者対象の進路研究会を 11 回実施し、進路決定に関する講演会や説明会を実施しました。

■ <グローバル教育の推進>

- 放課後に華語講座を実施するとともに、台湾大学見学研修を実施しました。
- エンパワーメントプログラム (英語力、倫理的思考力、人間力を育成)、異文化交流行事、海外研修旅行 (アメリカ、シンガポール・マレーシア)、セブ島語学研修を実施しました。



シンガポール研修旅行

- 生徒・保護者対象のグローバルセミナーを実施しました。
- JET などの制度を活用し、ネイティブスピーカーの増員を行うとともに台湾人英語教員を活用し、英語力の強化を行っています。

② 生徒支援

■ <キャリア教育の展開>

- 職場見学 (IHI エアロスペース、パナソニック・電通・大塚製薬など) を実施しました。
- 地域連携型キャリア教育として、地元企業経営者や高崎市役所各課と連携し、課題解決型学習 (NIA) を実施しました。
 - ・高崎市役所商業振興課・長寿社会課・文化財保護課・企画調整課など
 - ・群馬トヨタ自動車株式会社・第一病院・群成社・だるまの幸喜など

■ <指導体制の充実>

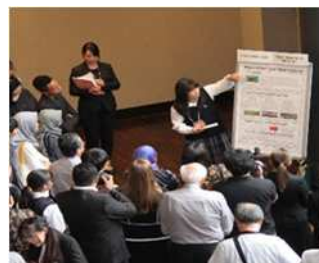
- 本校教員による放課後補習や長期休業中の進学講習を実施しました。
- GTEC や英語検定の校内受検を実施しました。また、英語検定対策講座を設け、英語力の向上に努めました。
- JET 教員や台湾教員による放課後英会話レッスンやオンライン英会話を推進していません。



外国人教員による指導

■ <高大連携の推進>

- 東京農業大学での理科発表会や学生サミット、食と農の博物館でのイベントに参加しました。
- 地元大学の高大連携プログラムに参加しました。



第 19 回学生サミット (東京農大)

■ <学校生活の支援>

- 生徒による授業評価アンケートを年間 2 回実施し、その結果をもとに管理職が教員と面談しました。

- いじめアンケートを年間2回、体罰調査を年1回行い、生徒把握を徹底しました。
- 養護教諭・カウンセラーなどと連携し、生徒や保護者の心のケアを行っています。
- 教員が発達障害に関する研修会に参加しました。

③ 社会貢献

■<ボランティア活動の実践>

- 台風19号による災害時に避難所として近隣住民を受け入れ、教員や生徒がボランティアとして援助活動に参加しました。
- 福祉施設の慰問や児童施設や小・中学校でのボランティア活動をクラブ単位で行いました。
- ブラインドウォークや車椅子体験を行うボランティア講習会を実施しました。
- 小・中学生対象のボランティアチューターを実施しました。
- 吹奏楽部が近隣の小・中学校を訪問し、技術指導を行いました。

④ 教育組織

■<新コースの設置>

- グローバル教育を推進するため、既存のコースに加えグローバルコースを新設を計画し、募集活動を展開しました。

■<働き方改革の推進>

- 教員の働き方改革の観点から、外部指導員による春季講習や夏季講習、勉強合宿などを実施するとともにクラブ活動においても外部指導員を活用しました。また、自習教室では大学生チューターを活用しています。
- 保護者や生徒との連絡ツールとして「ウェブでお知らせ」を活用しています。

⑤ 学習環境整備

■<学習環境の快適化>

- 本館1階の職員室前に自習教室を移転し、自学習環境を整えました。
- 選択教室にプロジェクターおよびインタラクティブ・ホワイトボードを設置し、アクティブラーニングの実施や教員のICT研修に活用しています。

■<施設・設備の整備拡充>

- 運動部生徒および遠方の生徒が利用する学生寮「鶴陵舎」が完成しました。
- 本館と昭和棟との渡り廊下や体育館周辺の外階段の修繕を行いました。

⑥ 管理運営

■<保護者・卒業生との連携強化>

- 農大二高後援会や同窓会との連携を強化し、意見交流を活発に行いました。
- 保護者や学校関係者に授業を公開し、要望や意見を聴取しました。
- 保護者対象高等教育無償化説明会を2回開催しました。

■<危機管理体制の整備>

- 危機管理体制整備としてAED講習に教員が参加しました。
- 通学路の安全マップを作成しました。
- 学生寮の運営規程を作成しました。

■<課外活動等>

○陸上競技部

インターハイ

- 男子200m、男子1500m、男子5000m
- 男子3000mSC 男子4×100mR、
- 男子4×400mR(2位)、
- 男子走り幅跳び(4位入賞 柳田大輝)
- 第7回全国高等学校陸上競技選抜大会
- 男子3000m(2位伊井修司、
- 5位石田洸介)
- 第70回全国高等学校駅伝競走大会
- 第9位、区間賞4区 伊井修司
- 第74回国民体育大会 少年男子B
- 走り幅跳び優勝 柳田大輝
- U18クロスカントリー日本選手権
- 優勝 石田洸介



U18クロスカントリー日本選手権

○ラグビー部

- 第6回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会出場

○競技かるた部

第41回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

個人戦 A 級準優勝 齋藤玄志

団体 ベスト8

第43回全校高等学校総合文化祭

小倉百人一首かるた部門競技の部

奨励賞

第28回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた読手コンクール

優秀賞（全国上位3位） 福山結喜

○吹奏楽部

第32回全日本マーチングコンテスト

高校以上の部 金賞

第47回マーチングバンド全国大会

高校の部 銀賞

○ボランティア部

第23回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞 佐藤望奏

○一般

全国高校生童話大賞 銅賞 中村綾音

(5) 東京農業大学第三高等学校・同附属中学校

① 生徒教育

■<教育改革3本柱の実践>

○教育改革の3本柱として「大胆なグローバル化」「実学で真の力を育てる」「学内完結型学習指導体制」を掲げ、それぞれの具体的なプランを実行しました。

■<コース制の進展>

○コースごとに3年間の指導計画を作成し、コース会議で進捗状況の確認と検証を行うとともに、新教育課程の検討も行いました。

■<生徒の進路目標実現に向けての支援>

○保護者を対象とした進学説明会、三者面談を実施しました。

○月2~3回ペースで進路通信を生徒・保護者向けに発行しました。

○中学校では、各学期の終業式ごとに保護者懇談会を開催し、学校生活・学習成績の報告を行い、学業への意識高揚に努めました。

■<教科指導力の向上>

○教員の指導力向上のために、FDの実施、校外研修会の参加、研究授業の実施、生徒による授業アンケートの結果分析講演会の開催などを組み合わせることにより、教員の教育スキルの向上を図りました。

○それぞれの教科会では、入試問題研究・アクティブラーニングの実施報告・模擬試験の結果分析等を行いました。併せてICT教材を利用した研究授業も実施しました。

② 生徒支援

■<国際社会に通用する人材育成>

○中学校では、イングリッシュワークショップ、グローバルイングリッシュキャンプ、ニュージーランド語学研修を実施しました。フィリピン・セブ島の英語講師とのオンライン英会話を継続実施しました。

○高校では、オーストラリアでの修学旅行に加え、フィリピン・セブ島やオーストラリア・クイーンズランド州での語学研修、華語講座やプログラミング講座など、新たなグローバルプログラムを実施しました。

- 高校・中学とも英語検定を校内実施することで必修化し、英語4技能の向上を図りました。



■<実学教育の実践>

- 高校では、各教科主催のフィールドラーニング(校外学習)を実施しました(鉱山・博物館の見学、発掘体験・ジャム作り体験など)。
- 中学校では、実学キャリア教育講演会、職場訪問、ヒラメの養殖体験を実施しました。



③ 社会貢献

■<地域の各種イベントへの参加>

- 中学校では、東松山市で実施した「社会を明るくする運動」に生徒会が参加し、地域との融和を図り地域社会での存在感を高めました。
- 東松山市商工会議所主催の「街ゼミ」に参加しました(百人一首部・天文部)。
- 生徒会を中心に学校周辺の自治会のイベントに参加して交流の機会をもちました。
- 防災訓練の様子を自治会の方に見ていただき、今後の訓練の在り方について協議しました。

④ 教育組織

■<業務効率の向上>

- 全教員にタブレット端末を配布し、運営委員会や職員会議はペーパーレスで実施するなど業務効率の向上を図りました。

⑤ 学習整備環境

■<ICT教育の環境整備>

- ICT教育の発展に向け、無線LANの設備を高校校舎棟の一部、中学校校舎棟の一部並びに武揚会館に実施し、ICT環境を整備しました。

■<施設面における環境設備>

- 「中長期保全計画」に挙げている第一体育館(33年経過)のトイレを改修しました。

⑥ 管理運営

■<学校運営のための支援・助力の確保>

- 保護者会・後援会・同窓会などの支援団体との協力を深め、学校の発展と生徒の学力・生活指導向上に寄与する活動に対し、助力をいただきました。

■<課外活動等>

○陸上競技部

北関東高等学校陸上競技対校選手権
 女子 800m 優勝 福田 舞菜
 男子 800m 出場 岩本 聖
 沖縄インターハイ
 女子 800m 出場 福田 舞菜
 関東高等学校駅伝 男子チーム出場

○剣道部

第66回関東高等学校剣道大会
 女子団体出場

○野球部

春季関東地区高等学校野球大会出場

○弓道部

関東高等学校弓道個人選手選抜大会出場
 本多 晴昇

○オリエンテーリング部

第33回全日本ジュニアオリエンテーリング選手権大会
 女子中学生の部 優勝 鈴木 万結
 3位 酒井 心菜

○女子ハンドボール部

第28回 JOC ジュニアオリンピックカップ
ハンドボール大会 準優勝 高橋 心実
(埼玉県選抜選手)

○書道部

第28回国際高校生選抜書展(書の甲子園) 入選 甲山 ふみか

○応援団チアリーダー部

USA School&College Nationals 2020
高校編成 Show Cheerleading 部門
Novice 出場



(6) 東京農業大学稲花小学校

①児童教育

■<体験型の学習>

○体験を重視した学びが本校のカリキュラムの特徴であり、「総合的な学習の時間」と「生活科」を合わせた時間を「稲花タイム」と位置付け、体験活動を軸とした学習を週に3時間実施しています。授業のフィールドは校内だけでなく、東京農業大学の世田谷や厚木キャンパス、卒業生農家の田んぼなど幅広く、水田学習や自然観察、食品や木材加工など、東京農業大学の教員や学生にも協力いただき、充実した内容を実施しました。



■<英語プログラム>

○カリキュラムにグレープシティ株式会社の「GrapeSEED」を採用し、1年生から毎日1時間、英語をネイティブとする外国人講師による、英語だけの授業を実施しました。

■<ICTを活用した授業>

○全教室に設置したホワイトボードと短焦点プロジェクターによる電子黒板を活用し、より効率的で効果的な授業方法について、検討、実施しました。

② 児童支援

■<アフタースクールの開室>

○私立小学校の子どもを通わせる層にも、共働き世帯が増加していることを踏まえ、外部委託によるアフタースクールを開室しました。放課後や夏休みなどの長期休業期間に利用でき、サッカーやダンス、プログラミングや算盤など、専門の講師による充実したプログラムも実施されました。

■<自校式給食の提供>

○校舎内で調理した温かい給食を、週5日提供しました。栄養教諭が作成した献立のスライ

ド資料を電子黒板に表示するなど、「食育」を兼ねた時間ともなりました。



施したほか、10月には世田谷区松原の圃場で芋掘りイベントを行い、保護者間の交流もなお一層進みました。

③ 社会貢献

■ <授業活動での地域交流>

- 「稲花タイム」において、児童たちが地元である経堂商店街や小田急線経堂駅を訪問しました。児童の在住エリアが広い反面、周辺地域との接点が少なくなりがちな私立小ですが、経堂の皆様から様々な説明を聞き、良い触れ合いの機会となりました。

④ 教育組織

■ <計画的な教員採用>

- 完成年度に向け計画的な人員配置案を作成し、教員の採用を進めました。採用にあたり、人柄や能力はもとより、私立小学校の特性と、時代の流れに則した新しい学校を創ろうとする、本校の方針に賛同できる人物であることを重視しました。

⑤ 学習環境整備

■ <完成年度に向けた整備計画>

- 校舎完成から2年目を迎え、設備のメンテナンスや空気環境のコントロール等、適切な運用方法について、検討、実施しました。
- 給食室内のアレルギー対応調理室内に、IHコンロと対応する電源を増設し、食物アレルギーを持つ児童への給食提供の質と安全性について、より一層向上させました。

⑥ 管理運営

■ <教育後援会の発足>

- 保護者組織として、新しく教育後援会も発足しました。初代役員が決定したキックオフミーティングに続き、記念イベントとして親子でのテーブルガーデニング教室を実

3 研究の推進

(1) 東京農業大学

採択・事業分野	テーマ(プロジェクト)	所属	事業推進責任者 研究代表者	新規 継続	
学内事業	植物病原菌の感染機構解明による安定した食料生産への貢献	生命科学部 分子微生物学科	教授 齋藤 宏昌	継続	
	自然災害による農業基盤施設の復旧を目指したGIS構築法の確立	地域環境科学部 生産環境工学科	准教授 関山 純子	継続	
	「農大版A-STEM教育プロジェクト」の研究・開発	教職・学術情報課程	准教授 武田 晃治	継続	
	環境DNAを用いた流行性病原体の自然環境下における感染経路ネットワーク推定	農学部 動物科学科	准教授 米澤 隆弘	継続	
	食用藍藻スピルリナが生産する細胞外高分子物質EPSの機能評価と大量生産系の構築	生命科学部 バイオサイエンス学科	准教授 渡辺 智	継続	
	カンボジア王国コンボンチャム州におけるバイオエネルギーを活用した農産物の加工条件および加工システムの構築	地域環境科学部 生産環境工学科	教授 村松 良樹	継続	
	アジア地域産業草が持つ機能性・安全性の網羅的評価法の確立	国際食料情報学部 国際食農科学科	教授 山内 淳	継続	
	渡り鳥の生息環境を指標とした、日露陸海域の生態系保全を目指す研究	生物産業学部 北方園農学科	准教授 白木 彩子	継続	
	異科属植物間での接木を志向した分子化学的アプローチ	生命科学部 分子生命化学科	准教授 齋藤 竜男	新規	
	サブサハラ・アフリカにおける都市・農村間連携の再構築と農業・栄養・健康・自然資源の連携による持続型社会の構築	農学部 デザイン農学科	准教授 松田 浩敬	新規	
	植物・昆虫・動物の多様性を指標とした島嶼農業生態系の評価と保全	農学部 生物資源開発学科	教授 小島 弘昭	新規	
	モンゴルにおける有機資材と耐乾燥性品種を活用した持続的農業技術の開発	生物産業学部 北方園農学科	教授 中丸 康夫	新規	
	農大型ケモバイオプロセスによる有用物質生産システムの開発および生体・環境への影響評価系の確立	生命科学部	教授 矢嶋 俊介	継続	
	現代人の栄養代謝を改善する新しい「栄養強化米」の開発と実用化(東京農大独自のブランド米開発)	応用生物科学部	教授 本間 和宏	継続	
	地域主体のアザランの循環型順応的管理システムの構築を目指して(～アザランの生態系サービスと有効利用の可能性を探る～)	生物産業学部	教授 吉田 穂積	新規	
	日本のコムギコアレクション由来の新規のコムギ縮萎縮病抵抗性の最適DNA選抜マーカーの開発	農学部 農学科	准教授 西尾 善太	新規	
	ゲノム編集技術を駆使した高葉酸含量・低シュウ酸含量ホウレンソウの育種	生命科学部 バイオサイエンス学科	教授 太治 輝昭	新規	
	気象情報を利用した画像取得計画に基づく、オホーツク生産者圃場におけるドローンおよび人工衛星画像によるセンシング手法の開発	生物産業学部 自然資源経営学科	教授 松村 寛一郎	新規	
	大学院先導的実学研究プロジェクト	ヤマモモに内生する窒素固定細菌の解明と利用	国際食料情報学部 国際農業開発学科	教授 志和地 弘信	継続
	アフリカ農業を救うストロラクソン高生産系の構築と、高活性類縁体の創出	生命科学部 バイオサイエンス学科	教授 坂田 洋一	新規	
抗肥満作用を有する高機能性プロコラーゲンの選別と農大発の高機能性野菜の開発	応用生物科学部 農芸化学科	教授 井上 順	新規		
ウシの腸内細菌叢とmiRNAを考慮した新規飼養基準による持続的な乳・肉生産体系の提案	農学部 動物科学科	教授 岩田 尚孝	新規		
若手研究者支援プロジェクト	完熟リンゴ‘ふじ’の低温応答におけるエチレンの役割の解明	農学部 農学科	助教 吉田 実花	新規	
A study on Muslim consumer behavior in Japan	国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科	助教 サフィル ラマドナ	新規		
ゲノム育種プロジェクト(特定プロジェクト)	植物工場栽培に適したダイコン品種のゲノム編集育種に向けた基盤構築	生命科学部 バイオサイエンス学科	教授 松本 隆	継続	
未来を担う酒造好適米品種を生み出すための研究	応用生物科学部 醸造科学科	准教授 数岡 孝幸	継続		
文部科学省	地球規模課題対応国際科学技術プログラム	ジブチにおける広域緑化ポテンシャル評価に基づいた発展的・持続可能水資源管理技術確立に関する研究	地域環境科学部 生産環境工学科	教授 島田 沢彦	継続
未来社会創造事業	中分子膜輸送強化による発酵技術改革	生命科学部 分子生命化学科	助教 廣江 綾香	継続	
厚生労働省	食品の安全確保推進研究事業	小規模事業者等におけるHACCP導入支援に関する研究	応用生物科学部 農芸化学科	教授 五十君 静信	継続
創薬基盤推進研究事業	国産麻黄自給率10%達成に向けた研究	農学部 生物資源開発学科	教授 御影 雅幸	継続	

※代表的な研究のみ掲載しています。

外部資金の概要

(単位:円)

区分	件数	金額
省庁関係	文部科学省関係	203 363,714,870
	文部科学省関係以外	28 262,341,710
地方公共団体	28	19,311,889
受託費(民間企業等)	160	152,416,606
寄付金(研究助成金)	75	50,213,306
合計	494	847,998,381

(2) 東京情報大学

採択・事業分野	テーマ	大学・学部・所属	事業推進責任者 研究代表者	継続 新規	
学内事業	佐原三菱館の歴史に関する調査(川崎財閥の歴史に関する調査) Phase2	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 堂下 浩	継続	
	地域と情報大のヒト・モノ・コトを記憶するWebサイト「ちばActive!」の開発・運用	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	助教 河野 義広	継続	
	地域在住者の生活・健康の実態と健康支援に関する研究	東京情報大学看護学部 看護学科	講師 豊増 佳子	継続	
	千葉市若葉区在住高齢者への「動きの能力」学習プログラム導入による健康増進効果の検証	東京情報大学看護学部 看護学科	講師 吉武 幸恵	継続	
	中学生の職業体験における大学の研究室訪問～千葉市教育委員会と連携で行うキャリア教育の構築～	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 原田 恵理子	継続	
	佐倉市における地域資源の発掘と地図化(佐倉市グリーンインフラ・マップの作成)	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 原 慶太郎	継続	
	地域活性化貢献するPV制作	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 藤田 修平	新規	
	第4次尾瀬総合学術調査研究(調査データ一般公開用バーチャルミュージアムの構築)	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 浅川 順	新規	
	地域包括支援センターにおける専門職によるアセスメントの現状把握を踏まえた一般住民のためのセルフモニタリングツールの開発	東京情報大学看護学部 看護学科	助教 井坂 智子	新規	
	認知症高齢者に携わる警察官の対応スキルの実態～警察官および当事者・家族の双方向の視座から～	東京情報大学看護学部 看護学科	助教 大山 一志	新規	
	プロジェクト研究 (先端的分野探求のための研究)	演奏動作情報収集に基づく演奏動作と楽器演奏の巧拙との関連性調査	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 西村 明	新規
		墜落しないFlying Taxi開発のための新しいドローン(マルチコプタ)の構造開発研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 鈴木 英男	新規
		UAVによる農作物の判別と生育状況把握(UAVによるスマート農業への基礎研究)	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 朴 鍾杰	新規
		プログラムモニタリングシステムおよび視覚化によるプログラミング教育の改善	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 大城 正典	新規
		企業・団体の認知症サポーターに対する業種の特徴を考慮したステップアップ講座の考案	東京情報大学看護学部 東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	助教 宮野 公恵	新規
	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	(委託業務) 地熱発電システム(冷却塔排気)の管理高度化に関する研究開発	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	准教授 富田 瑞樹	新規
	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)	(委託業務) ALOS-3観測データを想定した植生図作成の検討	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 原 慶太郎	新規
	榊日立システムズ	(包括連携協定) ・セキュリティインシデントの兆候解析の研究に関する連携 ・サイバー攻撃の検出手法に関する連携 ・サイバーセキュリティの人材育成に関する連携 ・医療分野における情報セキュリティのリテラシー教育に関する連携 ・医療分野におけるサイバー攻撃の潜在的な問題抽出や防衛策の研究に関する連携	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 布広 永示	継続
		(受託試験研究) サイバー攻撃者の行動特性解析やインシデント兆候解析、及び医療分野における情報セキュリティの実態調査に関する研究	東京情報大学総合情報学部 総合情報学科	教授 布広 永示	新規

外部資金の概要

(単位:円)

区分	件数	金額
省庁関係	13	21,770,000
文部科学省関係		
受託費(民間企業等)	5	6,699,000
寄付金(研究助成金)	5	5,520,000
合計	23	33,989,000

4 国際連携の推進

東京農業大学は我が国を代表する農生命科学の総合大学として、世界の平和と人類の繁栄に資するため、生命・食料・環境・健康・生物資源・地域創成の分野での諸問題の解決に向けた国際的な教育研究・協力活動を実施しています。海外提携大学・研究機関との連携によって実学的な国際教育プログラムや国際協力を企画運営し、教育研究水準の高度化を図るとともに、蓄積された経験と教育研究成果の社会還元に取り組んでいます。

特に、本学は世界トップレベルの農学及び生命科学系大学との連携を強化しています。海外の大学と交流協定を締結し、主な学生交流プログラムとして、長期と短期の留学・農業研修・語学プログラム(本学学生派遣)、短期プログラムと長期 visiting student (協定校学生受入) 及び世界学生サミットを実施しています。

また、本学は独立行政法人 国際協力機構 (JICA) が行う開発途上国への国際協力事業のうち、青年海外協力隊 (本学卒業生派遣者 1,000 人以上)、開発途上国技術協力研修員受入、日系人支援事業の支援・連携を行っています。

(1) 海外協定校 (30 カ国・地域、42 大学等高等教育機関)

※2020 (令和 2) 年 3 月末現在、() 内は締結年

- | | |
|---|---|
| 1) アメリカ・ミシガン州立大学(1966 (昭和 41) 年) | 22) フランス・ポーワ・ラサール・ボリテクニク学院 (2007 (平成 19) 年) |
| 2) タイ・カセサート大学(1988 (昭和 63) 年) | 23) タンザニア・ソコイネ農業大学 (2009 (平成 21) 年) |
| 3) カナダ・ブリティッシュコロンビア大学 (1988 (昭和 63) 年) | 24) カンボジア・王立農業大学 (2011 (平成 23) 年) |
| 4) 中国・中国農業大学(1988 (昭和 63) 年) | 25) ブラジル・アマゾニア農業大学 (2013 (平成 25) 年) |
| 5) 台湾・国立中興大学(1992 (平成 4) 年) | 26) 英国・レディング大学 (2013 (平成 25) 年) |
| 6) インドネシア・ボゴール農科大学(1996 (平成 8) 年) | 27) ジブチ・ジブチ大学 (2013 (平成 25) 年) |
| 7) モンゴル・モンゴル国立農業大学(1996 (平成 8) 年) | 28) ラオス・ラオス国立大学 (2014 (平成 26) 年) |
| 8) ペルー・ラモリーナ国立農業大学(1996 (平成 8) 年) | 29) アメリカ・コーネル大学(2014 (平成 26) 年) |
| 9) フィリピン・フィリピン大学ロスバニオス校(1996 (平成 8) 年) | 30) スリランカ・ペラデニア大学(2014 (平成 26) 年) |
| 10) 韓国・国立慶北大学(1998 (平成 10) 年) | 31) ミャンマー・イエジン農科大学(2014 (平成 26) 年) |
| 11) イスラエル・ヘブライ大学(1998 (平成 10) 年) | 32) 中華人民共和国・上海交通大学(2015 (平成 27) 年) |
| 12) ベトナム・ハノイ農業大学(1998 (平成 10) 年) | 33) オーストラリア・西オーストラリア大学(2015 (平成 27) 年) |
| 13) ブラジル・サンパウロ大学(2001 (平成 13) 年) | 34) タイ・タマサート大学 (2016 (平成 28) 年) |
| 14) メキシコ・チャピング自治大学(2001 (平成 13) 年) | 35) 韓国・江原大学 (2016 (平成 28) 年) |
| 15) ウクライナ・ウクライナ国立農業大学(2003 (平成 15) 年) | 36) 英国・ハイランズ・アンド・アイランズ大学(2017 (平成 29) 年) |
| 16) マレーシア・マレーシアプトラ大学(2004 (平成 16) 年) | 37) インド・ハリヤナ農業大学(2017 (平成 29) 年) |
| 17) フランス・リール農業高等学院(2004 (平成 16) 年) | 38) ロシア・極東連邦大学(2017 (平成 29) 年) |
| 18) フランス・アンジェ農業高等学院(2001 (平成 13) 年) | 39) アメリカ・カリフォルニア大学デイビス校(2018 (平成 30) 年) |
| 19) フランス・ロヌ・アルプ農業栄養高等学院(2004 (平成 16) 年) | 40) トルコ・オンドクズマユス大学(2018 (平成 30) 年) |
| 20) フランス・ブルバン技術学院(2004 (平成 16) 年) | 41) <u>ネパール・ネパール農林業大学 (2019 (令和元) 年)</u> |
| 21) オランダ・ワーヘニンゲン大学(2004 (平成 16) 年) | 42) <u>オーストラリア・西シドニー大学(2019 (令和元) 年)</u> |

学生交流プログラム派遣・受入人数一覧

機関人 (国人)	派遣		受入	
	短期	長期	短期	長期
ミシガン州立大学 (アメリカ)	6	-	22	-
カセサート大学 (タイ)	15	-	16	-
ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)	24	-	2	-
中国農業大学 (中国)	8	-	13	-
国立中興大学 (台湾)	16	-	17	4
IPB 大学 (旧ボゴール農科大学) (インドネシア)	1	-	2	-
モンゴル生命科学大学 (モンゴル)	-	-	2	-
フィリピン大学ロスバニョス校 (フィリピン)	16	-	1	-
国立慶北大学 (韓国)	-	-	2	-
ベトナム国立農業大学 (ベトナム)	-	-	2	-
マレーシアプトラ大学 (マレーシア)	-	-	2	-
リール農業高等学院 (フランス)	-	-	-	2
アンジェ農業高等学院 (フランス)	-	-	-	3
ロース・アルプス農業栄養高等学院 (フランス)	-	-	-	2
ブルバン技術学院 (フランス)	-	-	-	1
ワーヘニンゲン大学 (オランダ)	-	-	1	2
ソコイネ農業大学 (タンザニア)	13	-	1	-
王立農業大学 (カンボジア)	-	-	1	-
レディング大学 (イギリス)	-	-	1	-
ラオス国立大学 (ラオス)	-	-	1	-
ペラデニア大学 (スリランカ)	-	-	2	-
西オーストラリア大学 (オーストラリア)	17	-	1	-
国立江原大学 (韓国)	12	-	9	-
極東連邦大学 (ロシア)	-	-	11	-
ハイランズ・アンド・アイランズ大学 (スコットランド)	-	-	1	-
ハリヤナ農業大学 (インド)	3	-	2	-
バングラディッシュ農業大学 (バングラディッシュ)	-	-	0	1
北京林業大学 (中国)	-	-	1	-
ヴァイヘンステファン応用科学大学 (ドイツ)	-	-	1	-
	131	0	114	15

(2) 第19回世界学生サミット



International Students Summit (ISS)
世界学生サミット

<https://www.nodai.ac.jp/cip/iss/>

世界の食料・環境問題を考え、人類の持続的発展と青年自らの役割について話し合うために、毎年、海外協定校、外国人留学生及び日本人学生が一堂に会して、「新世紀の食と農と環境を考える世界学生サミット」を開催しています。

第19回目を迎えた2019（令和元）年は、「若者が考える、地域社会と地球全体を結びつけるための持続可能な農業と資源管理の方法について」をテーマとし、9/18、19、21に世田谷キャンパスで開催され、世界26か国・地域から44人の学生が参加しました。

なお、2020（令和2）年9月に開催される第20回ISSは、協定校であるインドネシアのボゴール農科大学で開催される予定です。



(3) 大学の世界展開力強化事業

<http://tenkai.nodai.ac.jp/>

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択され、2015（平成27）年度から取り組みを開始した「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」は、2020（令和2）年3月末をもって事業を終了しました。

同事業では、東京農業大学と中南米の農学系大学との連携を強化しながら、既に実施している交換プログラムに農学系インターンシップを加えて総合的実学教育プログラムを実施し、中南米地域で活躍できる開拓（開発）型グローバル人材を育成し、持続的な食糧生産をめざす日系企業への就職及びに農林水産業における起業家の実業を支援しました。農学系インターンシップは、校友会海外支部及び校友の全面的な支援を受けて実施しました。

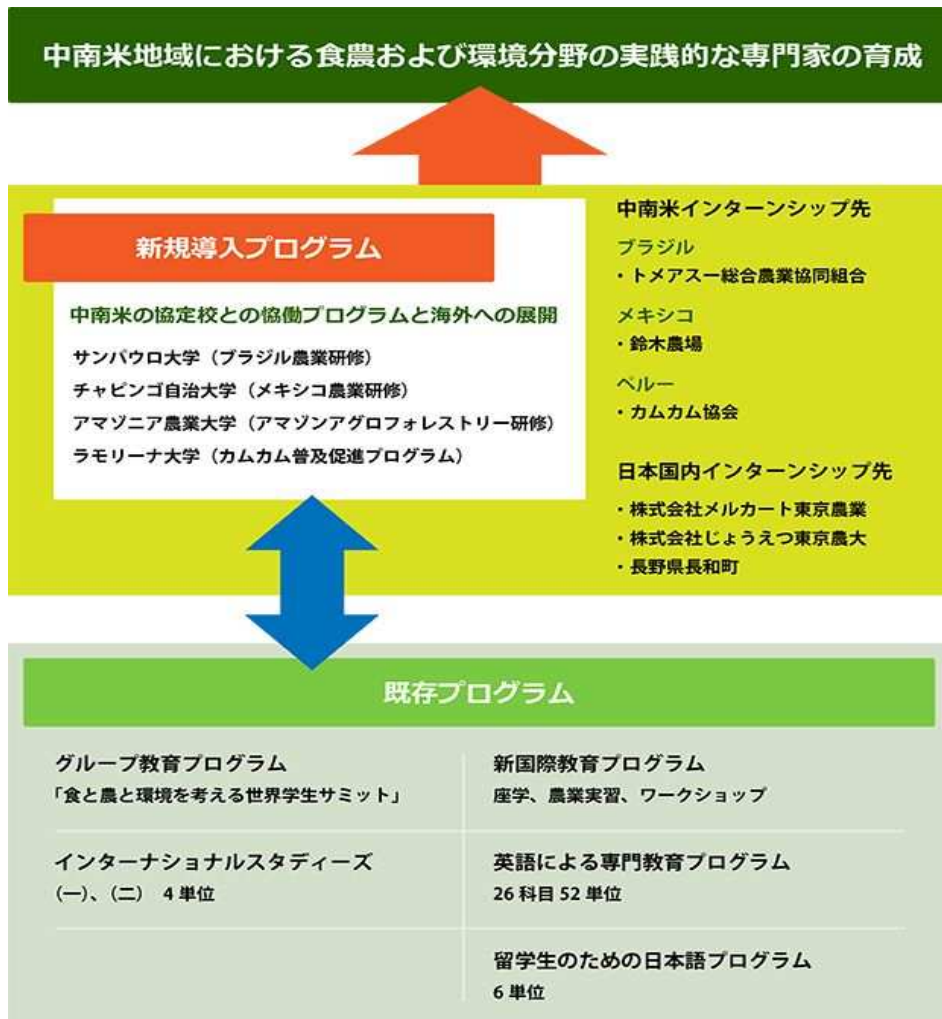
学生交流プログラム派遣・受入人数一覧【世界展開力強化事業】

（単位：人）

機関人（国人）	派遣		受入	
	短期	長期	短期	長期
アマゾン農業大学（ブラジル）	6	-	2	3
サンパウロ大学（ブラジル）		1	2	5
チャピング自治大学（メキシコ）	5	1	24	3
ラ・モリーナ国立農業大学（パルー）	5	-	1	2
合計	16	2	29	13

◆事業概要

「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業」は、東京農業大学と中南米の農学系大学との連携を強化しながら、既に実施している交換プログラムに農学系インターンシップを加えて総合的実学教育プログラムを実施し、中南米地域で活躍できる開拓（開発）型グローバル人材を育成し、持続的な食糧生産をめざす日系企業への就職及びに農林水産業における起業家の実業を支援するものです。



◆5年間の成果

事業期間5年間での派遣学生数は延べ88人、受入学生数は延べ122人に上り、それぞれ事業開始前の2.93倍と7.6倍に増加しました。また、本事業により留学機会を得た学生の多くは、留学経験を活かした就職や進学を果たしています。

(4) JICA 開発途上国技術協力研修員・日系研修員受入事業

■ JICA 開発途上国技術協力研修員受入事業

本学大学院は、開発途上国諸国の行政官、技術者、研究者を大学院生として受入れています。専門知識と技術を体得した研修員大学院生は、母国において課題解決に役立つ有益な人材として活躍しています。

・アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成 (PEACE) プロジェクト	在籍学生数	6人
・アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABE イニシアティブ)		11人
・シリア平和への架け橋・人材育成プログラム (JISR)		1人
・中南米・カリブ次世代知日派リーダー育成プログラム		1人
・「ベトナム、カンボジア、タイにおけるキャッサバの侵入病害虫対策に基づく持続的生産システムの開発と普及」事業		1人
・日系社会リーダー育成事業		3人

■ 日系研修員受入事業 (短期)

中南米地域の日系人への技術協力支援として、本学教員が日系研修員を受入れ、母国の国づくりに貢献する人材育成を支援しています。受入研修員数1人 (ボリビア)。

5 教育研究施設設備等の整備（主要事業）

■東京農業大学

（世田谷キャンパス）

- 新研究棟建設事業
新研究棟の建設

- 学部学科改組
新学科設置に伴う機器備品の購入

- キャンパス環境整備事業
桜丘アリーナ空調設置工事

（厚木キャンパス）

- 学部学科改組
実験実習棟の建設
研究棟の改修
新学科設置に伴う機器備品の購入

- キャンパス環境整備事業
本部棟空調設備の更新
学生用食堂厨房機器更新
〔伊勢原農場〕
実習用機器備品整備、コンバイン更新、
穀物調整室ルーフファン設置
〔富士農場〕
トラクター換装、研究棟ボイラー更新、
第一堆肥舎屋根修繕、研究棟トイレ増設

（北海道オホーツクキャンパス）

- キャンパス環境整備事業
8号館2階教室AV機器等の改修
第二食堂2階旧式電灯の交換
臨海研究センターろ過装置の修繕

世田谷キャンパス
農大サイエンスポート



厚木キャンパス
実験実習棟



■東京情報大学

- キャンパス環境整備事業
4号館空調更新工事
1号館2～5階トイレの改修
非常放送設備の更新

■東京農業大学第一高等学校・中等部

- キャンパス環境整備事業
ICT教育環境整備（1号館〔15教室〕電子
黒板機能付プロジェクターの設置、1号館
〔45教室〕ホワイトボード設置）

■東京農業大学第二高等学校

- 学生寮「鶴陵舎」建設事業
構造規模：鉄骨造地上2階建て、延床面積
約1,082 m² (327坪)
施設概要：寮室35室60人収容、寮長・寮母室、
食堂、厨房、共同浴室・トイレ・シャワー・洗濯
・洗面室等
- キャンパス環境整備事業
ICT教育環境整備（Wi-Fi工事、電子黒板
機能付プロジェクター設置〔3教室〕）
体育館連絡通路（而立館～体育館）改修
公用車の更新

■東京農業大学第三高等学校・附属中学校

- キャンパス環境整備事業
ICT教育環境整備（Wi-Fi工事、移動式
プロジェクター購入〔10台〕）
第一体育館トイレの改修

第二高等学校
学生寮（鶴陵舎）



6 2019（令和元）年度卒業生進路（学校別）

大学

(2020年4月1日現在)

(単位:人)

学部・学科 区分		東京農業大学																							
		農学部				応用生物科学部					地域環境科学部				国際食料情報学部				生物産業学部				大計		
		農学	畜産学	バイオセラピー学	計	バイオサイエンス学	生物応用化学	醸造学	食品安全健康学	栄養学	計	森林総合科学	生産環境工学	造園学	計	国際農業開発学	食料環境経済学	国際バイオビジネス学	計	生物生産学	アクアバイオ学	食品香料学		地域産業経営学	計
卒業生数	263	190	164	617	156	144	169	178	120	767	161	145	167	473	161	252	173	586	107	87	93	95	382	2825	
就職	企業・団体等	192	152	131	475	99	105	136	149	107	596	140	132	141	413	128	218	141	487	84	70	82	82	318	2289
	自営	10	3	1	14	2	1			1	4	1	1	4	6	2	6	3	11	6	1		2	9	44
進学	大学院・大学	21	15	5	41	39	31	25	16	8	119	8	1	9	18	10	8	4	22	10	8	8	1	27	227
	短大				0						0				0				0					0	0
学	専門・専修・海外留学	2	1	4	7	1		1	2		4					4	1		5				1	1	17
	科目等履修生・研究生	1		1	2		1	1			2			1	1	4			4				1	1	10
	研修生・実習生												1	2	3			1	1				1	1	5
	その他	37	19	22	78	15	6	6	11	4	42	12	10	10	32	13	19	24	56	7	8	3	7	25	233

(単位:人)

学部・学科 区分		東京情報大学 総合情報学部	
		総合情報学	計
卒業生数		384	384
就職	企業・団体等	324	324
	自営	1	1
進学	大学院・大学	7	7
	短大		0
学	専門・専修・海外留学	3	3
	科目等履修生・研究生		0
	研修生・実習生		0
	その他	49	49

高校

(2020年4月30日現在)

(単位:人)

区分		学校	東京農業大学 第一高等学校	東京農業大学 第二高等学校	東京農業大学 第三高等学校
卒業		者数	344 (135)	517 (263)	362 (128)
進 学	大 学	東京農業大学	29 (14)	40 (16)	103 (22)
		東京情報大学	0 (0)	5 (2)	0 (0)
		他大学(国公立)	38 (7)	56 (24)	8 (2)
		他大学(私立)	201 (94)	254 (126)	195 (89)
		計	268 (115) 77.9%	355 (168) 68.7%	306 (113) 84.5%
	短期大学	0 (0) 0.0%	24 (21) 4.6%	1 (1) 0.3%	
	専修・各種学校	1 (0) 0.3%	41 (28) 7.9%	15 (8) 4.1%	
就職		者	0 (0) 0.0%	9 (4) 1.7%	2 (0) 0.6%
その他(家事等)			75 (20) 21.8%	87 (32) 16.8%	38 (6) 10.5%

注1) ()内は女子内数。

中学

(平成2年4月30日現在)

(単位:人)

区分		学校	東京農業大学 第一高等学校中等部	東京農業大学 第三高等学校附属中学校
卒業		者数	167 (86)	54 (23)
進 学 校	高 校	東京農業大学第一高等学校	161 (84)	— (—)
		東京農業大学第三高等学校	— (—)	48 (22)
		その他	6 (2)	6 (1)
	計	167 (86) 100.0%	54 (23) 100.0%	
就職		者	0 (0) 0.0%	0 (0) 0.0%
その他(家事等)			0 (0) 0.0%	0 (0) 0.0%

注1) ()内は女子内数。

7 2020（令和2）年度入学試験

2020年度入学試験状況(推薦・一般・センター入試等の合計)

大学・大学院

(単位:人)

学校名等		志願者	受験者	合格者		
東京農業大学	大学院	農学専攻	20	20	15	
		畜産学専攻	17	17	17	
		バイオセラピー学専攻	10	10	9	
		バイオサイエンス専攻	45	45	42	
		林学専攻	10	9	7	
		農業工学専攻	5	5	5	
		造園学専攻	14	14	13	
		国際農業開発学専攻	28	28	24	
		農業経済学専攻	10	10	10	
		国際バイオビジネス学専攻	12	12	11	
		環境共生学専攻	2	2	2	
		小計	173	172	155	
	農学研究科	農芸化学専攻	45	45	37	
		醸造学専攻	33	33	26	
		食品安全健康学専攻	23	23	21	
		食品栄養学専攻	11	11	10	
	小計	112	112	94		
	応用生物科学研究科	生物産業学専攻	3	3	3	
		生物生産学専攻	11	11	10	
		アグアバイオ学専攻	7	7	7	
		食品香粧学専攻	10	10	9	
		産業経営学専攻	2	2	2	
	小計	33	33	31		
	大学院合計		318	317	280	
	学部	農学部	農学科	1,995	1,900	655
			動物科学科	1,564	1,527	587
			生物資源開発学科	1,823	1,761	505
			デザイン農学科	1,097	1,057	534
			小計	6,479	6,245	2,281
		応用生物科学部	農芸化学科	2,086	2,027	725
			醸造科学科	1,718	1,678	517
			食品安全健康学科	1,717	1,670	576
			栄養科学科	1,504	1,444	356
小計		7,025	6,819	2,174		
生命科学部	バイオサイエンス学科	2,842	2,755	692		
	分子生命化学科	1,796	1,742	677		
	分子微生物学科	2,035	1,986	636		
小計	6,673	6,483	2,005			
地域環境科学部	森林総合科学科	1,198	1,168	468		
	生産環境工学科	800	776	425		
	造園科学科	1,038	1,021	417		
	地域創成科学科	1,010	993	395		
小計	4,046	3,958	1,705			
国際食料情報学部	国際農業開発学科	1,295	1,228	475		
	食料環境経済学科	1,545	1,513	521		
	国際バイオビジネス学科	1,289	1,250	486		
	国際食農科学科	1,082	1,042	389		
小計	5,211	5,033	1,871			
生物産業学部	北方園農学科	536	518	280		
	海洋水産学科	646	616	238		
	食香粧化学科	404	393	281		
	自然資源経営学科	338	329	212		
	小計	1,924	1,856	1,011		
学部合計		31,358	30,394	11,047		
大学総計		31,676	30,711	11,327		

注 推薦、一般、センター利用入試等の合計人数

(単位:人)

学校名等		志願者	受験者	合格者	
東京情報大学	大学院	総合情報学専攻	9	9	7
		大学院計	9	9	7
	学部	総合情報学部	2,064	2,004	653
		看護学部	214	198	172
		学部合計	2,278	2,202	825
	大学総計		2,287	2,211	832

注 推薦、一般、センター利用入試等の合計人数

高等学校・中学校・小学校

(単位:人)

学校名等	志願者	受験者	合格者
東京農業大学第一高等学校	930	896	632
東京農業大学第二高等学校	1,848	1,846	1,731
東京農業大学第三高等学校	1,208	1,204	1,159
東京農業大学第一高等学校中等部	1,898	1,394	552
東京農業大学第三高等学校附属中学校	366	284	226
東京農業大学稲花小学校	925	708	135

注 高等学校の内部進学者も「受験者数」、「合格者数」に含める。

41,138

39,254

16,594

※編入学を除く入学試験状況。

※高等学校の内部進学者も「受験者数」、「合格者数」に含める。

IV 財務の概要

2019年度決算について、その概要を報告します。

(注) 本資料の収支計算書、貸借対照表及びその他の表や図については、百万円未満を四捨五入しているため、合計額と一致しない場合があります。

1 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいいます。)の収入・支出のてん末を明らかにするものです。

2019年度の資金収支決算は、次表のとおりです。

資金収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	2019年度		
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)
資金収入	学生生徒等納付金収入	22,653	22,646	6
	手数料収入	893	892	1
	寄付金収入	183	203	△ 21
	補助金収入	2,586	2,768	△ 182
	資産売却収入	6	6	0
	付随事業・収益事業収入	693	743	△ 50
	受取利息・配当金収入	59	144	△ 86
	雑収入	477	580	△ 103
	各種特定資産の取崩	14,419	14,648	△ 229
	前受金・預り金収入等	5,876	6,488	△ 612
	前年度繰越支払資金	17,044	17,022	22
	収入の部合計	64,889	66,142	△ 1,253
資金支出	人件費支出	13,031	12,741	290
	教育研究経費支出	9,261	8,304	956
	管理経費支出	1,776	1,443	333
	借入元利金支出	0	0	0
	施設・設備関係支出	16,079	15,632	446
	各種特定資産の積立	4,424	4,540	△ 117
	預り金支出等	5,852	6,080	△ 227
	翌年度繰越支払資金	14,467	17,402	△ 2,935
支出の部合計	64,889	66,142	△ 1,253	

2019年度の資金収入総額は、66,142百万円で予算対比1,253百万円の収入増となりました。

この増加の内訳は、経常収入(*1)433百万円増、各種特定資産の取崩229百万円増、前受金・預り金収入等612百万円増です。

翌年度繰越支払資金を除いた資金支出総額は、48,740百万円で予算対比1,681百万円の支出減となりました。この減少の内訳は、経常支出(*2)1,579百万円減、施設・設備関係支出446百万円減、各種特定資産の積立117百万円増、預り金支出等227百万円増です。

以上の結果、2020年度へ繰越す翌年度繰越支払資金は、17,402百万円で、予算対比2,935百万円の増加となりました。

(*1) 経常収入：学生生徒等納付金収入から雑収入までの収入 (*2) 経常支出：人件費支出から管理経費支出までの支出

— 活動区分資金収支計算書 —

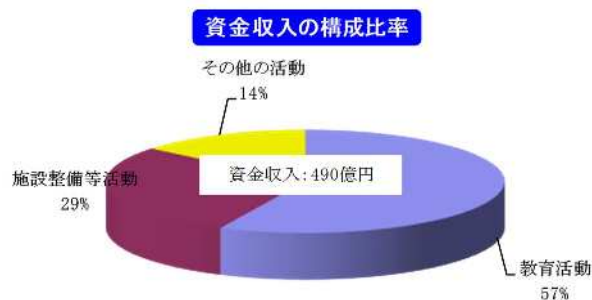
「活動区分資金収支計算書」は、「資金収支計算書」を、活動区分(教育・施設整備等・その他)に組み替えて記載し、区分ごとの資金の流れを明らかにするものです。

- ①「教育活動」: 学校の本業である教育活動の収支状況を見ることができます。
- ②「施設整備等活動」: 主に施設設備投資とその財源を見ることができます。
- ③「その他の活動」: 借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。

活動区分資金収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	2018年度 決算(1)	2019年度 決算(2)	差異 (1) - (2)
	教育活動による 資金収支	教育活動資金収入計	26,740	27,794
	教育活動資金支出計	21,537	22,488	△ 951
	差 引	5,203	5,306	△ 103
	調整勘定等	△ 1,834	68	△ 1,902
	教育活動資金収支差額	3,369	5,373	△ 2,005
施設整備等 活動による 資金収支	施設整備等活動資金収入計	6,928	14,315	△ 7,388
	施設整備等活動資金支出計	11,289	19,167	△ 7,878
	差 引	△ 4,361	△ 4,852	491
	調整勘定等	△ 89	278	△ 367
	施設整備等活動資金収支差額	△ 4,450	△ 4,574	124
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 1,081	800	△ 1,881
その他の 活動による 資金収支	その他の活動資金収入計	6,979	6,915	64
	その他の活動資金支出計	7,831	7,332	500
	差 引	△ 852	△ 417	△ 435
	調整勘定等	△ 3	△ 4	0
	その他の活動資金収支差額	△ 856	△ 420	△ 435
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 1,937	379	△ 2,316
前年度繰越支払資金		18,960	17,022	1,937
翌年度繰越支払資金		17,022	17,402	△ 379



2 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、当該会計年度の教育・研究その他の諸活動を「教育」、「教育外」、「特別」の3つの活動に区分し、区分ごとの収支内容並びに基本金組入額を含めた収支の均衡状態を明らかにするものです。

2019年度の事業活動収支決算は、次表のとおりです。

事業活動収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	2019年度			
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	22,653	22,646	6
		手数料	893	892	1
		寄付金	171	177	△ 6
		経常費等補助金	2,517	2,756	△ 239
		付随事業収入	693	743	△ 50
		雑収入	477	595	△ 118
		教育活動収入計(A)	27,404	27,809	△ 405
	支出	人件費	13,012	12,732	280
		教育研究経費	11,863	10,906	956
		管理経費	2,075	1,746	329
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計(B)	26,950	25,385	1,565		
教育活動収支差額(A)-(B)		454	2,424	△ 1,970	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	59	144	△ 86
		その他	0	0	0
		教育活動外収入計(C)	59	144	△ 86
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計(D)	0	0	0		
教育活動外収支差額(C)-(D)		59	144	△ 86	
経常収支差額		513	2,569	△ 2,056	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	136	90	46
		特別収入計(E)	136	90	46
	支出	資産処分差額	3	333	△ 330
		その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計(F)	3	333	△ 330	
特別収支差額(E)-(F)		133	△ 243	376	
予備費		187	0	187	
基本金組入前当年度収支差額		458	2,326	△ 1,867	
基本金組入額合計		△ 14,026	△ 16,335	2,309	
当年度収支差額		△ 13,567	△ 14,009	442	
前年度繰越収支差額		2,077	4,746	△ 2,669	
基本金取崩額		83	3,482	△ 3,399	
翌年度繰越収支差額		△ 11,407	△ 5,780	△ 5,627	
事業活動収入計		27,598	28,044	△ 446	
事業活動支出計		27,139	25,718	1,422	

<経常収支>

経常収入合計(*1)は、27,953百万円で491百万円の収入増、経常支出合計(*2)は、25,385百万円で1,565百万円の支出減となりました。

結果、経常収支差額は、2,569百万円の収入超過で2,056百万円の増加となりました。

(*1) 経常収入：教育活動収入+教育活動外収入 (*2) 経常支出：教育活動支出+教育活動外支出

(1) 教育活動収支

教育活動収支差額は、2,424百万円の収入超過で、1,970百万円の増加となりました。

予算対比で収入増となった科目は、寄付金177百万円、経常費等補助金2,756百万円、付随事業収入743百万円、雑収入595百万円です。一方、収入減となった科目は、学生生徒等納付金22,646百万円、手数料892百万円です。また、予算対比で支出減となった科目は人件費12,732百万円、教育研究経費10,906百万円、管理経費1,746百万円です。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収支差額は、144百万円の収入超過で、86百万円の増加となりました。収入増となった科目は、受取利息・配当金144百万円です。

<特別収支>

特別収支差額は、243百万円の支出超過で、376百万円の減少となりました。

予算対比で収入減となった科目は、その他の特別収入90百万円です。一方、支出増となった科目は、資産処分差額333百万円です。

<事業活動収支>

事業活動収入合計は、28,044百万円で446百万円の増加、事業活動支出合計は、25,718百万円で1,422百万円の減少となりました。

基本金組入額は、16,335百万円で2,309百万円の組入増、基本金取崩額は3,482百万円で3,399百万円の取崩増となりました。

以上の結果、2019年度の基本金組入前当年度収支差額は、2,326百万円の収入超過、当年度収支差額（基本金取崩後）は、10,527百万円の支出超過となりました。

翌年度へ繰越す翌年度繰越収支差額は、次式のとおりマイナス5,780百万円となりました。

	当年度収支差額（基本金取崩後）	約	△10,527百万円
+	前年度繰越収支差額	約	4,746百万円
	翌年度繰越収支差額	約	△5,780百万円

3 貸借対照表

「貸借対照表」は、資産の部、負債の部、純資産の部を設け、資産、負債、純資産の科目ごとに、当該会計年度末の金額を前会計年度末の金額と対比して記載するものです。

2019年度末の貸借対照表は、次表のとおりです。

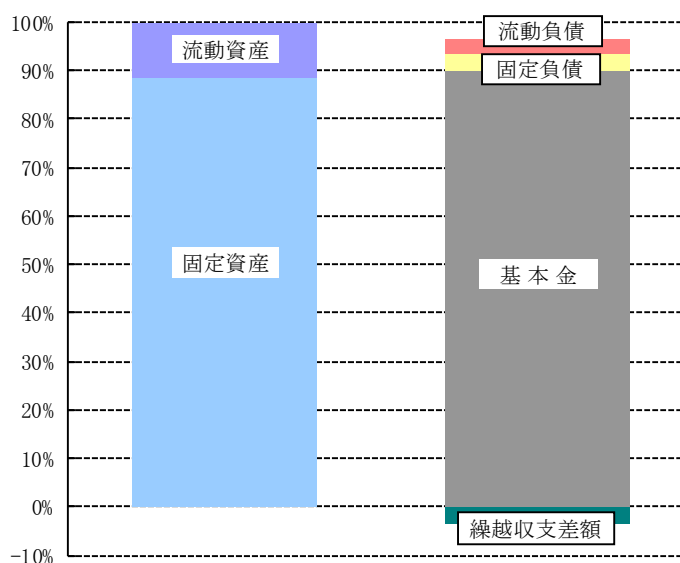
貸借対照表

資産の部		(単位:百万円)		
科目		2019年度末(1)	2018年度末(2)	増減(1)－(2)
資産の部	固定資産	141,496	139,145	2,351
	流動資産	18,039	17,850	188
合計		159,535	156,995	2,540

負債の部・純資産の部		(単位:百万円)		
科目		2019年度末(1)	2018年度末(2)	増減(1)－(2)
負債の部	固定負債	6,280	6,054	225
	流動負債	5,363	5,375	△ 11
	計	11,643	11,429	214
純資産の部	基本金	153,672	140,819	12,852
	繰越収支差額	△ 5,780	4,746	△ 10,527
	計	147,892	145,566	2,326
合計		159,535	156,995	2,540

資産の構成比率

負債・純資産の構成比率



2019 年度末の固定資産は、農大サイエンスポート（新研究棟）の建設等により前年度対比 2,351 百万円の増加となりました。また、流動資産は現金預金を中心に前年度対比 188 百万円の増加となりました。

一方、固定負債は長期未払金の増加により前年度対比 225 百万円の増加となりました。また、流動負債は前受金の減少等により、前年度対比 11 百万円の減少となり、負債の部では前年度対比 214 百万円の増加となりました。

なお、固定資産の取得等により基本金は前年度対比 12,852 百万円増加し、繰越収支差額は前年度対比 10,527 百万円の減少となりました。

4 財産目録

「財産目録」は、学校法人が学校を運営していくために必要な基本財産と運用財産を明らかにするものです。

一 資産

(単位:百万円)

基本財産		
(1) 土地	2,496,143 m ²	12,524
(2) 建物	385,758 m ²	65,425
(3) 構築物	1,858 件	4,076
(4) 山林		172
(5) 緑化樹木	17,058 本	256
(6) 教育研究用機器備品	93,566 点	10,162
(7) 管理用機器品	4,373 点	330
(8) 図書	849,182 点	3,953
(9) 車両	73 台	53
(10) 建物仮勘定		8
(11) 積立金		11,174
(12) 預金		1,603
(13) 施設利用権		87
(14) 敷金補償金		2
計		109,826

(単位:百万円)

運用財産	
(1) 不動産	4,269
(2) 電話加入権	12
(3) 有価証券	793
(4) 長期貸付金	43
(5) 積立金	28,156
(6) 現金	3
(7) 預金	15,796
(8) 未収入金	525
(9) 貯蔵品	10
(10) 東京農業大学教育奨学金短期貸付金	1
(11) 短期貸付金	5
(12) 短期有価証券	6
(13) 前払金	67
(14) 立替金	3
(15) 動物	15
(16) 植物	6
計	49,709

二 負債

(単位:百万円)

固定負債	
(1) 長期未払金	276
(2) 退職給与引当金	6,003
計	6,280

(単位:百万円)

流動負債	
(1) 未払金	480
(2) 前受金	3,387
(3) 預り金	1,496
計	5,363

三 正味財産

(単位:百万円)

正味財産	
(1) 正味財産	147,892
計	147,892

5 資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較

資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表の経年比較は、次表のとおりです。

(1) 資金収支計算書の経年比較

(単位:百万円)

科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	20,850	20,773	21,221	21,716	22,646
	補助金収入	2,410	2,720	2,517	2,652	2,768
	その他の経常収入 *1	2,639	2,724	2,525	2,694	2,570
	前受金等その他 *2	9,289	10,009	9,907	11,633	21,136
	前年度繰越支払資金	21,445	19,988	19,299	18,960	17,022
	合計	56,633	56,214	55,469	57,655	66,142
支出の部	人件費支出	12,638	12,614	12,713	12,788	12,741
	教育研究経費支出	6,715	7,012	7,137	7,257	8,304
	管理経費支出	1,388	1,630	1,497	1,491	1,443
	施設・設備関係支出	3,506	3,814	4,189	7,811	15,632
	資産運用支出等他 *3	12,400	11,845	10,973	11,285	10,620
	翌年度繰越支払資金	19,988	19,299	18,960	17,022	17,402
	合計	56,635	56,214	55,469	57,655	66,142

*1 その他の経常収入

手数料収入、寄付金収入、資産売却収入、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金収入、雑収入

*2 前受金等その他

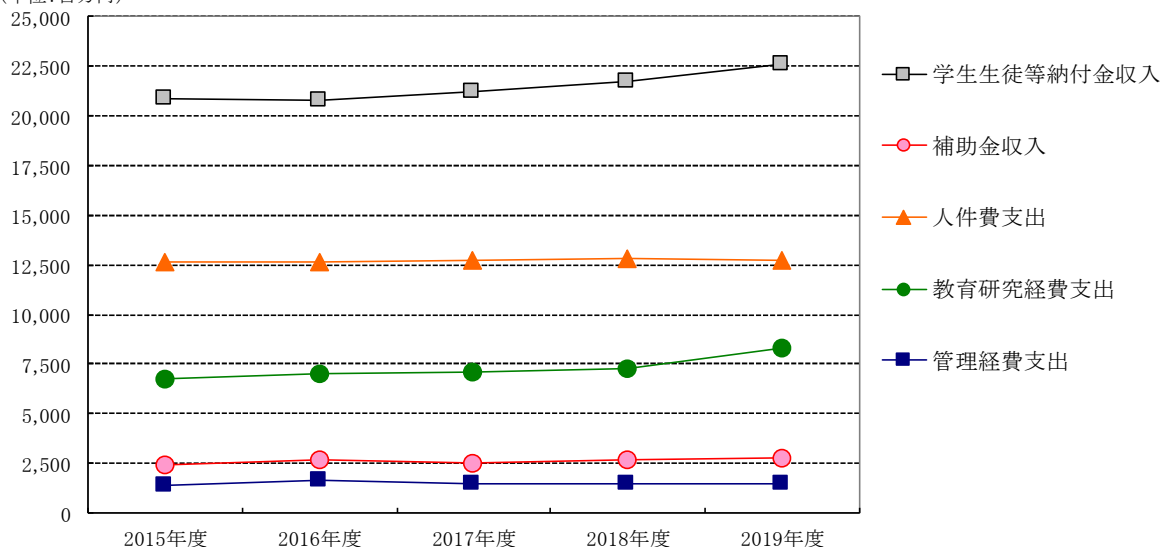
前受金収入、その他の収入、資金収入調整勘定

*3 資産運用支出等他

借入金等利息支出、借入金等返済支出、資産運用支出、その他の支出、資金支出調整勘定

主な収入支出科目の推移

(単位:百万円)



(2) 事業活動収支計算書の経年比較

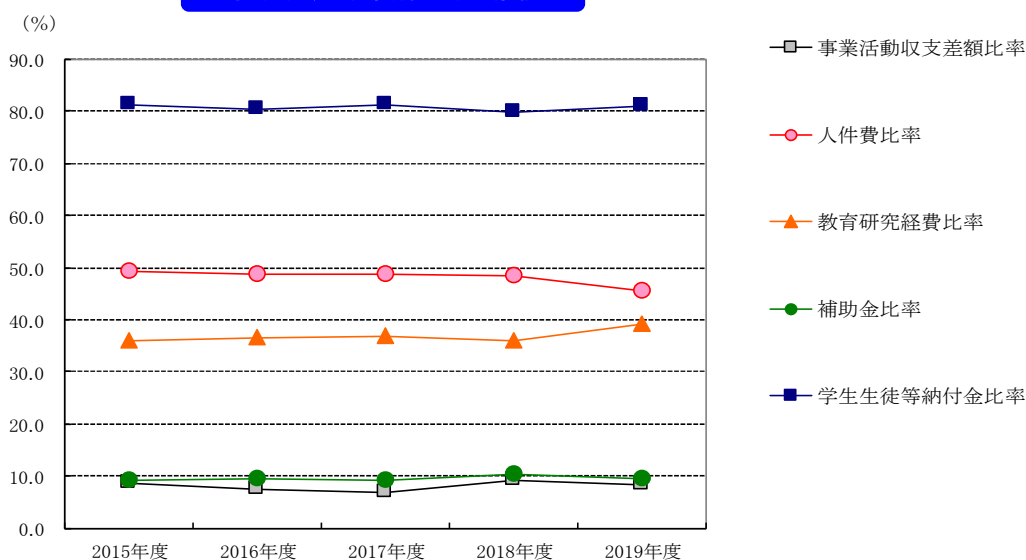
事業活動収支計算書の経年比較

(単位:百万円)

科 目		参考値				2019年度
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
教育活動 収支	教育活動収入計	25,510	25,722	26,067	27,104	27,809
	教育活動支出計	23,486	23,899	24,097	24,669	25,385
	教育活動収支差額	2,024	1,823	1,970	2,434	2,424
教育活動 外収支	教育活動外収入計	115	69	60	68	144
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	115	69	60	68	144
経常収支差額		2,139	1,892	2,030	2,502	2,569
特別収支	特別収入計	294	384	195	160	90
	特別支出計	204	336	427	117	333
	特別収支差額	90	48	△ 232	43	△ 243
基本金組入前当年度収支差額		2,229	1,940	1,797	2,546	2,326
基本金組入額合計		△ 3,638	△ 2,528	△ 2,324	△ 3,166	△ 16,335
当年度収支差額		△ 1,409	△ 588	△ 527	△ 621	△ 14,009
前年度繰越収支差額		7,233	5,996	5,475	5,136	4,746
基本金取崩額		172	67	188	231	3,482
翌年度繰越収支差額		5,996	5,475	5,136	4,746	△ 5,780

事業活動収入計	25,920	26,175	26,322	27,332	28,044
事業活動支出計	23,691	24,234	24,525	24,786	25,718

事業活動収支関係比率の推移



(3) 貸借対照表の経年比較

資産の部

(単位:百万円)

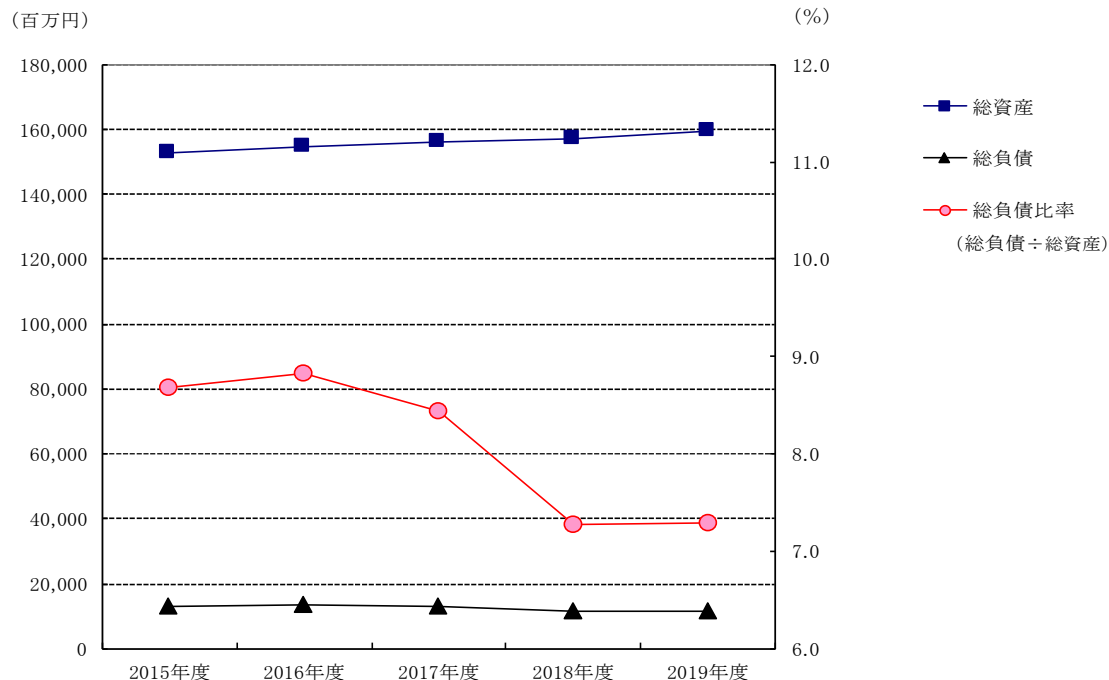
科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
資産の部	固定資産	131,589	134,647	136,417	139,145	141,496
	流動資産	20,933	20,247	19,789	17,850	18,039
合計		152,522	154,894	156,206	156,995	159,535

負債の部・純資産の部

(単位:百万円)

科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
負債の部	固定負債	6,303	6,144	6,049	6,054	6,280
	流動負債	6,937	7,527	7,137	5,375	5,363
	計	13,239	13,671	13,186	11,429	11,643
純資産の部	基本金	133,287	135,748	137,884	140,819	153,672
	繰越収支差額	5,996	5,475	5,136	4,746	△ 5,780
	計	139,283	141,223	143,020	145,566	147,892
合計		152,522	154,894	156,206	156,995	159,535

貸借対照表の推移



6 財務比率の経年比較

(1) 事業活動収支計算書財務比率の推移

(単位:%)

比率名	算出方法	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	49.2	48.6	48.7	48.5	45.5
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.5	60.4	59.8	60.7	56.2
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	35.8	36.5	36.8	35.8	39.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.6	7.5	6.9	6.5	6.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.6	7.4	6.8	9.3	8.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.4	80.5	81.2	79.9	81.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	9.3	10.4	9.6	9.6	9.9
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	8.4	7.3	7.8	9.2	9.2

(2) 貸借対照表財務比率の推移

(単位:%)

比率名	算出方法	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	86.3	86.9	87.3	88.6	88.7
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	3.9	3.5	3.3	3.0	△ 3.6
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	94.5	95.3	95.4	95.6	95.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	301.8	269.0	277.3	332.1	336.3
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.7	8.8	8.4	7.3	7.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	9.5	9.7	9.2	7.9	7.9
内部留保比率	$\frac{\text{内部留保資産}}{\text{総資産}}$	40.5	40.5	40.7	37.5	37.5



SINCE1891

学校法人 東京農業大学